



保幼小連携 接続カリキュラム



平成24年12月

佐世保市



はじめに



急速な少子化の進行や時代の要請を踏まえ、次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境整備を図るため、本市では、平成22年に「次世代育成支援 佐世保市行動計画（後期行動計画）」（させぼっ子未来プラン）を策定しました。併せて、「子どもを安心して生み育てることのできる環境の充実」「地域での子どもと子育て支援」「子育てと仕事の両立支援」の柱を立て、子育て支援政策に取り組んでまいりました。

また本市では、就学前の子どもたちを一体的に支援していくことを目的とし、平成20年4月に「子ども未来部」を創設しました。このことにより、保育所や幼稚園などを一元的に所管するとともに、子育て支援や少子化対策などの子どもに関する政策を総合的に推進していく体制を整えました。

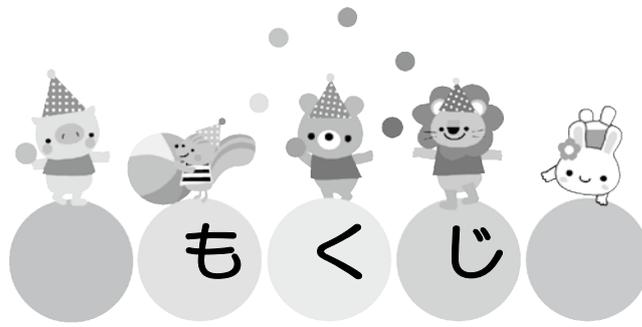
しかし、家庭や地域の子育て力の低下や社会的環境の著しい変化が、「基本的な生活習慣の欠如」「コミュニケーション能力の低下」「自制心や規範意識の希薄化」など、子どもたちの育ちに大きく影響を及ぼしていると言われるのも実状です。また、小学校に入学したばかりの1年生が、落ち着いて教師の話聞くことができず、友達と騒いだり教室の席を離れたりするなどで授業が成立しなくなる、いわゆる「小1プロブレム」が問題視されるようになったことも、見逃すことはできません。保育所・幼稚園から小学校への生活環境の急激な変化に、子どもたちがスムーズに適応できず、戸惑いをおこしたことが一つの要因と考えられます。

こうした問題への対応として、就学前の保育所・幼稚園と小学校との連携の必要性が、今、大きく問われています。

今回、作成しました「保幼小連携接続カリキュラム」は、子どもの育ちを大切に、保育所・幼稚園と小学校の滑らかな接続を考え、佐世保市において、互いを理解し見通しをもった保育・教育が進められるよう作成しました。今後、それぞれの立場でご活用いただき、子育て環境の一層の向上に寄与することを願ってやみません。

最後に、この「保幼小連携接続カリキュラム」の作成にあたり多大なるご協力を賜りました、佐世保市保育会、佐世保私立幼稚園協会、佐世保市小学校長会等の皆様に対し、心から感謝の意を表するとともに、保幼小連携の充実のために、今後とも関係の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月
佐世保市長 朝長 則男



第1章 保育所・幼稚園と小学校を滑らかにつなぐために	5
I 保幼小連携について	7
1 これまでの経緯	7
2 保幼小連携の効果	8
3 保幼小連携の進め方と段階表	8
II 接続期の指導の基本的な考え方	10
1 幼児期の保育・教育と小学校教育の違い	10
2 保幼小の「接続期」を丁寧に	10
III 佐世保市の幼児・児童の教育目標	11
1 佐世保市の幼児教育目標	11
2 佐世保市の小学校の重点目標	12
IV 接続カリキュラムの視点	13
第2章 発達の特徴	15
第3章 保幼小連携接続カリキュラム	23
I 保育・指導のポイント	25
・ 5歳児後半期の保育のポイント	26
・ 小学校入学期の指導のポイント	28
II 保幼小連携接続カリキュラム（実践編）	31
1 生活する力	33
①保育室・教室環境	34
②一日の生活の流れ	36
③身の回りの始末（靴、衣服の着脱、持ち物の整理）	38
④食事・排泄	40
2 かかわる力	43
⑤規範意識（あいさつ、善悪の判断、生命尊重、安全生活）	44
⑥聞く・話す・伝え合う	46
⑦友達との関係づくり（協同的な経験）	48
⑧担任との関係づくり	50
3 学ぶ力	53
⑨学びの芽生え	54
⑩運動・表現	56
第4章 交流活動	59
I 交流活動とは	60
II 交流活動の視点	60
III 交流活動実践事例	61
1 清掃の仕方を学ぼう！小学校の給食を食べてみよう！	61
2 ダンボールを使っておもちゃを作ろう	64
3 さあ みんなでかけよう	66
IV 保幼小連携年間交流計画例	70
第5章 資料（保育室環境・教室環境）	75

第1章

保育所・幼稚園と小学校を
滑らかにつなぐために



I 保幼小連携について

1 これまでの経緯

乳幼児期は、子どもたちが健やかに育ち、生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、生活や遊びの中で直接的、具体的な体験を通して、よりよく社会で生きていくための最も基本となる力を獲得していく時期です。また、児童期は、各個人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を培い、社会の一員としての基本的な資質を養う時期と言えます。

ところが、現在は、核家族化や少子高齢化が進み、家庭や地域の子育て力の低下や社会的環境の著しい変化が、子どもたちの育ちに大きく影響を及ぼしているという指摘があります。また、小学校に入学したばかりの1年生が、人の話を聞かない、授業中に歩き回る、おしゃべりが絶えないなど、いわゆる「小1プロブレム」を引き起こしているという指摘もあり、保育所・幼稚園と小学校との接続が、円滑に行われていないことも一因ではないかという考えも出てきました。

折しも、平成20年3月に、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、及び「小学校学習指導要領」が改訂されました。その中で、乳幼児期の子どもたちの健やかな成長を保障していくためには、保育所・幼稚園と小学校が連携し合っていくことが必要であり、就学前保育・教育と小学校教育の連続性と学びの基礎力の育成が重要視されるようになりました。

しかし、保育所・幼稚園と小学校においては、これまでに様々な形での連携に取り組んできましたが、保育者や教師の意識の相違や互いの保育や教育内容についての理解不足などで思うように進んでいないという課題も浮き彫りになりました。

そもそも、保育所・幼稚園は遊びを中心とした保育・教育であるのに対し、小学校は教科等の学習を中心とする教育と、その教育内容や指導方法が異なっています。互いの違いを乗り越えて、環境が変わっても、子どもが本来持っている能力を伸ばすことができるように配慮し合い、「生活の接続」と「学びの接続」を考える必要があります。保育所・幼稚園の就学前保育・教育を単なる小学校の準備教育と捉えるのではなく、小学校以降の教育の「土台」と考え、保育者が見通しをもって「学びの芽生え」を援助しなければなりません。小学校教育は、教師が乳幼児期に培った一人一人の「学びの芽生え」を意識して、指導にあたらなければなりません。そこには、乳幼児にとっても小学生にとっても有意義なものとなるような、互惠性のある連携が求められているのです。

以上のことをふまえ、佐世保市では、平成17年度より本市幼児教育センターの事業として、「保幼小連携講座」を開設し、公開保育・公開授業などにより保幼小連携への理解を推進してきました。また、平成22年度には、小学校区ごとの保幼小連携の取り組みの温度差を解消するために、市全体での保幼小連携のシステム化を図る「保幼小連携協議会」を新たに設置しました。

さらに、保幼小連携の推進計画案を検討するために、保育所・幼稚園・小学校の各団体の代表者を委員とした「保幼小連携推進会議」を立ち上げ、8月には市内の保幼小の全施設長が一堂に会する「保幼小連携施設長会」を開催し、12月～1月には、「保幼小連携担当者会」を地域別に7か所で開催するなど積極的に取り組んできました。

平成23・24年度は、さらにもう一步進むために、小学校区ごとの保幼小連携年間交流計画を作成し、また、保育所・幼稚園・小学校の各団体の代表委員による「保幼小連携接続カリキュラム検討委員会」を新たに立ち上げ、佐世保市全体の「保幼小連携接続カリキュラム」作りに取り組んできました。

平成25年度からは、このカリキュラムを実践に移し、その有効性の検証を図っていきます。

2 保幼小連携の効果

○ 保育所・幼稚園と小学校の連携により、子どもがより生活の変化に適応しやすくなるなど、連携の効果には次の3点が考えられます。

(1) 子ども同士の交流活動

- ・乳幼児が小学校生活に親しみ、期待を寄せたり、児童に対して憧れを抱いたりしながら、自分の近い将来を見通すことができるようになります。
- ・児童が乳幼児に伝わるような言葉づかいやかかわりを工夫したり、思いやりの心を育んだりして、自分の成長に気づくことができます。

(2) 教職員の交流

- ・乳幼児・児童の実態、教育内容や指導方法について相互理解を深めることにより、円滑な接続に向けた指導方法等の改善ができます。
- ・長期的な視点から考えた「義務教育修了までに育てたい力」について、子どもの発達段階に応じてそれぞれの施設が果たすべき役割を再認識できます。

(3) 保育・教育課程の編成、指導方法の工夫

- ・保育または教育課程の編成や指導方法を工夫し、乳幼児期の保育・教育と小学校教育との段差を滑らかにすることにより、子どもの生活の変化による戸惑いが軽減されると思われれます。

3 保幼小連携の進め方と段階表

保幼小連携 4ステップ

1 無理なくできることから

- 互いの行事への参加
- 互いの研修会への参加

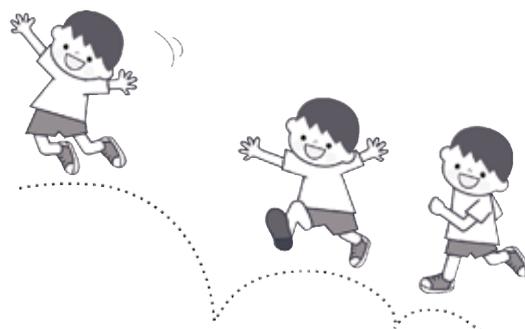
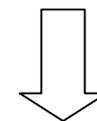
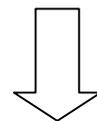
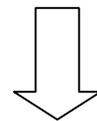
2 キーパーソンを位置付けて

- 各校・園で連携の窓口を一本化
- キーパーソンの打ち合わせ
- 学校全体・園全体で情報を共有化

3 互いの計画をつなげよう

- 互いの年間交流計画への位置づけ
- 年度末に次年度の計画を立案

4 接続カリキュラムの作成・実施



[保幼小連携段階表]

	段階名	園長・校長	保育所・幼稚園	小学校
第1段階	はじめの 一歩段階	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小連携の啓発 研修会の実施 保幼：園長会、主任会 研修会にて周知 小：校長会、副校長・教頭会、 分団会などにて周知 園長・校長の交流、あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣保育所、幼稚園、小学 校の確認 小学校への散歩 校庭利用、トイレの借用 校内めぐり 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣保育所、幼稚園の確認 保育所、幼稚園の学校利用 を促進 授業公開案内の配布
第2段階	交流段階	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小連携研修会の実施 (職員への参加呼びかけ) 保幼小連携協議会の実施 保育参観、授業参観の実施 園長・校長の相互訪問、職 員の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の授業への参加 年間行事計画、園だよりの 送付 保幼行事への招待 行事の交流活動 (運動会、学習発表会など) 	<ul style="list-style-type: none"> 保幼の保育・教育への参加 年間行事計画、学校だよりの 送付 小学校行事への招待 行事の交流活動 (運動会、遊戯会など)
第3段階	互恵性を 求めた活 動段階 接続カリ キュラム 検討	<ul style="list-style-type: none"> 接続カリキュラム検討委員 会設置 接続のカリキュラム作成と 実施の準備、指導 	<ul style="list-style-type: none"> 連携活動の実施 保幼小職員との事前打ち合 わせ 指導案の作成 小学校教員との連携指導 接続カリキュラムの実施 (就学前) 	<ul style="list-style-type: none"> 連携授業の実施 保幼職員との事前打ち合わ せ 指導案の作成 保幼職員との連携指導 接続カリキュラムの実施 (就学後)
第4段階	接続カリ キュラム 作成・実 施段階	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施 (成果と課題) 	<ul style="list-style-type: none"> 全市的な保幼小連携 接続カリキュラムの作成と 実施 接続カリキュラムの評価と 改善 	<ul style="list-style-type: none"> 全市的な保幼小連携 接続カリキュラムの作成と 実施 接続カリキュラムの評価と 改善

○第1段階（はじめの一歩段階）

保幼小連携の啓発、近隣の施設・小学校の確認、研修会参加

- ・近隣の施設・小学校について、どのくらいの規模で、どこにあり、どのような方針で運営されているのか、何人の卒園児（入学児童）がいるのか情報を共有し、職員の顔合わせをする。

○第2段階（交流段階）

保幼小連携の推進、連絡体制の確立、保育・授業参観、行事への招待

- ・保・幼・小お互いの年間計画の中に、乳幼児、児童の保育・授業参観、行事への招待を取り入れ子ども同士・教師間の交流活動を行う。

○第3段階（互恵性を求めた連携段階／接続カリキュラム試行段階）

保幼小連携の充実、互恵性のある連携活動、接続カリキュラム検討委員会の設置

- ・乳幼児・児童の双方にメリットがある互恵性のある連携活動を進めていくために、教師間での事前打ち合わせ、振り返り（評価）を行い、子どもの発達や学びの様子を把握し、接続カリキュラムの作成へとつなげていく。

○第4段階（接続カリキュラム実施段階）

保幼小連携の発展（評価・改善）、接続カリキュラムの作成・実施

- ・第3段階までの保幼小連携を見直し、今後の課題を見出していき、接続カリキュラムを作成し、実施していく。

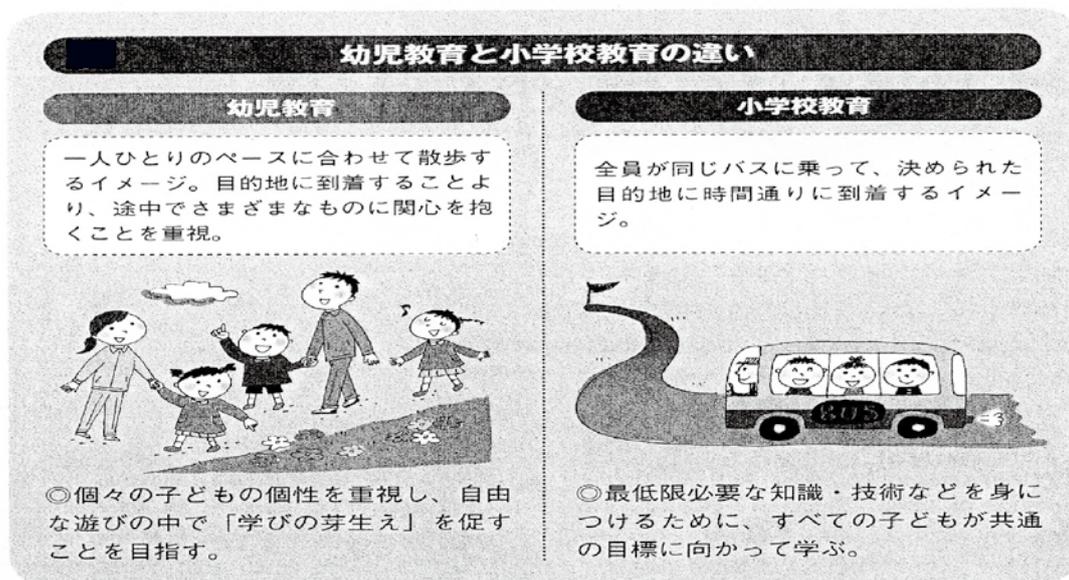
II 接続期の指導の基本的な考え方

1 幼児期の保育・教育と小学校教育の違い

幼児期の保育・教育では、幼児の自発的な活動としての「遊び」を通して、様々な体験や学びの芽生えを積み重ねることができるよう、保育者が環境を構成し、一人一人に応じた総合的な保育・教育活動を行っています。

小学校では、決められた時間割に基づき、教科書などの教材を用いて各教科の内容を意図的・計画的に学習していきます。

幼児の遊びや生活の中には、小学校以降の学習につながる「学びの芽生え」がたくさんあります。子どもの発達の見通しをもち、小学校への学習のつながりや指導方法などをこれまで以上に意識することで、何をどのように援助していくとよいか、より明確になっていきます。



参考文献：ベネッセ次世代育成研究所「これからの幼児教育を考える」2011年 春号

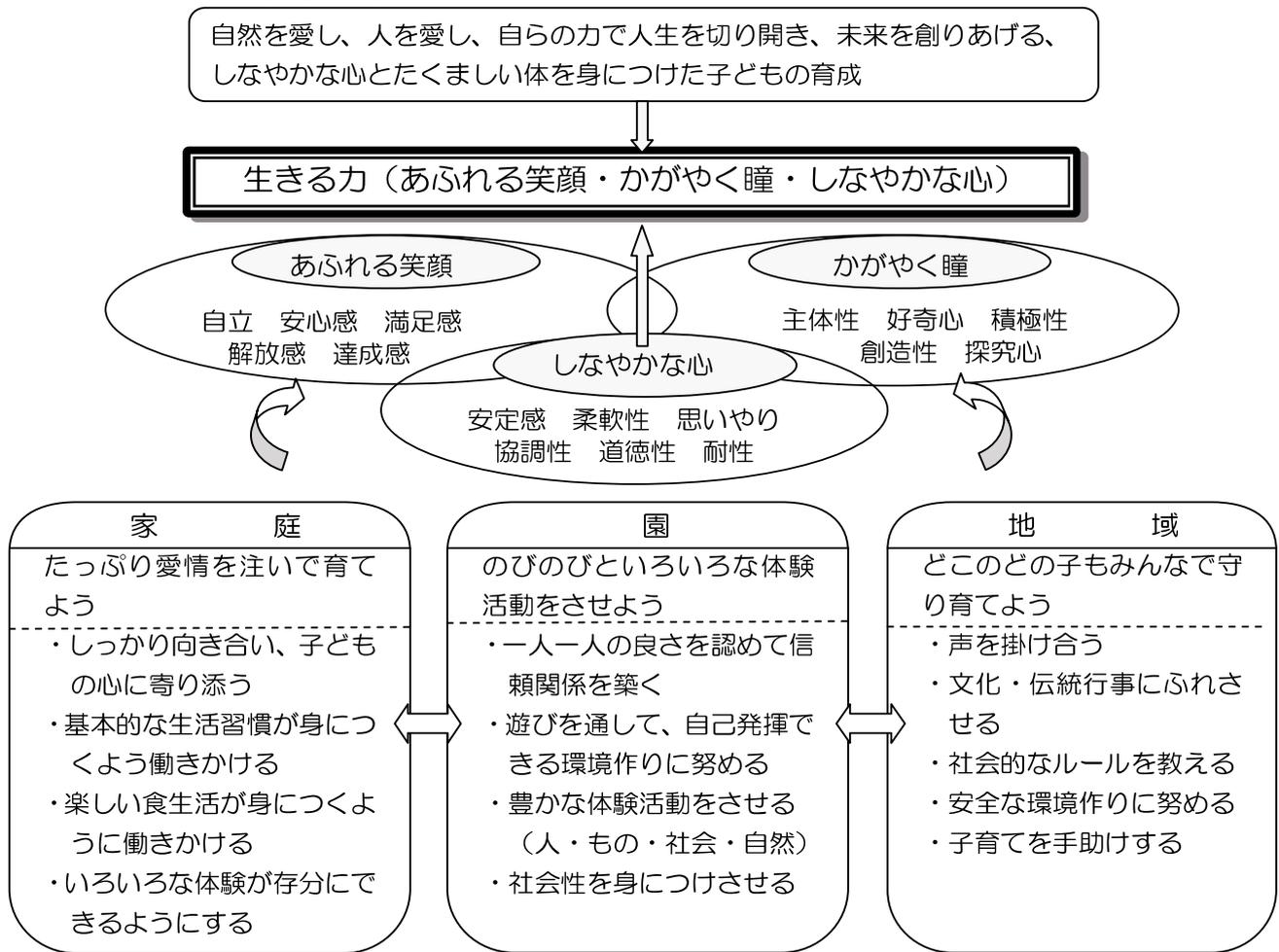
2 保幼小の「接続期」を丁寧に

「接続期」は、保育所・幼稚園と小学校のかかわりが深く、最も密であり丁寧に指導することが大事です。これは、幼児期の保育・教育を単なる小学校への準備期間として捉えるのではなく、また、小学1年生の指導レベルを落として合わせるという考え方もありません。保育者や教師は、それぞれの子どもの発達段階や指導内容・方法などをきちんと理解した上で、その円滑な接続のために、保育所・幼稚園・小学校ですべき指導を確実に行うことが重要になります。

そのためには、近隣の小学校施設の活用や幼児と児童の交流など、様々な機会を設けて、互いの指導の実際を理解したり、指導者同士が情報交換などの交流を深めたりすることが欠かせません。相互の授業を参観し、その実際を理解していれば、子どもたちにとって易しすぎたり、難しすぎたりすることを要求するようなことはなくなるものと思われれます。

Ⅲ 佐世保市の幼児・児童の教育目標

1 佐世保市の幼児教育目標



※ 幼児教育とは、小学校就学前の幼児に対する家庭、地域社会、保育所・幼稚園等施設において行われる教育の総称と捉える。

【「生きる力」と「あふれる笑顔」「かがやく瞳」「しなやかな心」の概要】

<「生きる力」（平成8年7月 中央教育審議会答申）>

- ・自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力を、重要な要素と考える

①「あふれる笑顔」（自立・安心感・満足感・解放感・達成感）

幼児は、一人一人のよさや存在そのものを認められ、受け入れられ、愛されていると実感できる環境の中で安心感や満足感を抱くことができる。安らぎの中に心から笑顔が生まれ、一つ一つ自分で試してみて満足感や達成感を味わい、やがて自立へと向かう。全てはこの笑顔があふれる環境（信頼関係の確立）が大切である。

②「かがやく瞳」（主体性・好奇心・積極性・創造性・探究心）

幼児は、もともと様々な環境に自ら積極的・主体的にかかわろうとする力をもっている。実際、自分で、また仲間と試行錯誤しながら探究し創造し発見していく。そういうときは、瞳が輝いているものである。瞳が輝く環境が大切である。

③「しなやかな心」（安定感・柔軟性・思いやり・協調性・道徳性・耐性）

幼児は、周りの人々とのかかわりや遊びの中で、様々な感情を体験していく。その中で、柔軟な発想や気持ちの切り替えができ、一人一人の違いや存在を認め受け止め、自分自身をコントロールする自制心や協調性や道徳性、また、困難に出会った時も立ち向かう明るさとたくましさ身につくことが望まれる。そういう、しなやかな心が育つ環境が大切である。

心豊かな『佐世保っ子』を育むための重点目標

子どもたちが、社会の激しい変化に対応しながら生きていくためには、学校教育において「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けさせる必要がある。そこで、心豊かな「佐世保っ子」を育むために、「基礎・基本の定着と確かな学力の向上」「地域の特性を生かした特色ある学校づくりの推進」「豊かな心を育む教育の充実」を重点目標として、以下の点から実践を進める。

(1) 地域の特色を生かした特色ある学校づくりの推進

学校2学期制を推進するとともに、学校の主体性に基づく特色ある学校づくりを展開し、地域・家庭の教育力を生かした開かれた学校づくりを目指す。

(2) 豊かな心を育む教育の充実

生きる喜びを感じ取ることができる「心豊かでたくましい子ども」を育成するために、「心の教育の充実」「子どもの心の居場所づくりの推進」「コミュニケーション能力の育成」「一徳運動の推進」を図る。また、相談体制の充実により、いじめ・不登校等の問題行動への積極的な対応を充実させる。

(3) 確かな学力の向上

習熟度別学習を含めた少人数指導等の充実により、一人一人の児童生徒に応じた細かな指導の充実を推進する。また、学校司書の配置等による読書活動の充実、教職員の資質の向上を進め、確かな学力の向上を目指す。

(4) 国際化・情報化・ノーマライゼーション社会の実現等時代の要請への対応

国際都市佐世保市にふさわしい国際感覚豊かな児童生徒の育成のために、国際理解教育を推進するとともに、高度情報化社会を主体的に生きる児童生徒を育成する。

また、特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制を充実させる。

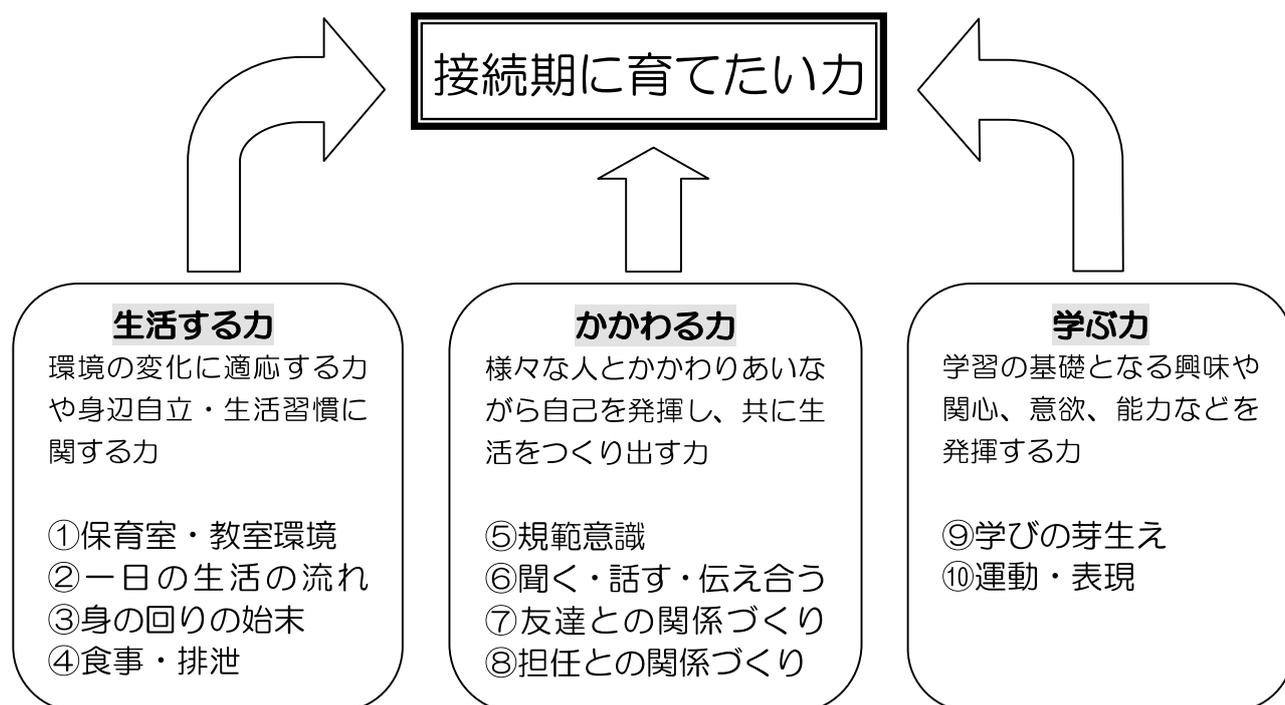
(5) 安全・安心な教育環境の確保

学校施設の整備充実を目指すとともに、警察等の関係機関や地域・家庭と連携した安全な地域環境づくりを推進する。また、食育の充実や保健管理・安全教育を推進する。

(平成24年度「佐世保の教育」より抜粋)



IV 接続カリキュラムの視点



保育所・幼稚園では、保育所保育指針や幼稚園教育要領に定められた5領域を通して、総合的な保育・教育活動を行っています。また、小学校では、各教科・領域ごとの学習指導要領に則り、日々の教育活動を行っています。

そこで、保育所・幼稚園・小学校でそれぞれが指導する際は、次の3点について意識化や理解を深めることが大切です。

- 1 保育所・幼稚園においては、小学校入学後の活動などを見据え、この3つの力をバランスよく育てることを意識していくこと。
- 2 小学校においては、保育所・幼稚園での活動内容や経験している事柄について理解すること。
- 3 小学校においては、それらを生かして、入学当初の指導内容を組み立てていくこと。

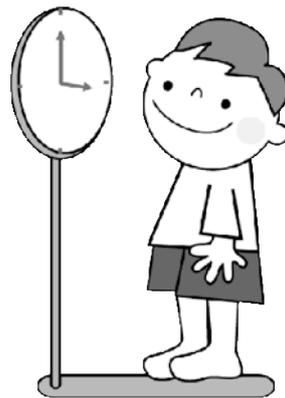
また、接続カリキュラムの指導内容は、家庭における生活習慣づくりなどの家庭の教育力が欠かせないことから、保護者への理解・啓発を図る必要があります。

幼児期の保育・教育と小学校教育は、相互理解を深めるとともに、相違を認識しながら連続性・一貫性をもった構成にしなければなりません。これからの保育・教育は、線から面へと見通しをもって厚みを増し、相互に関連をもちながら総合的に展開されることが必要です。



第2章

発達の特徴



発達の特徴

子どもの心身の発達の諸側面は、それぞれが独立して発達するものではなく、乳幼児が家庭での愛情を受け、能動性を発揮し、保育所・幼稚園や地域で生活する中で促進されます。

第2章では、0歳児～接続期の発達の特徴を図表に記すことで、保育所・幼稚園・小学校をつなぐ保育・教育活動を長い目で捉え見通しをもつことができ、「接続期に育てたい力」を育むことができると考えられます。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	接続期
体の育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・首がすわり、手足の動きが活発になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・座る、はう、立つ、つたい歩きをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く、走る、跳ぶことができる ・歩行が確立する 	<ul style="list-style-type: none"> ・全身のバランスがとれてくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動や遊びに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能がますます伸びる 	<ul style="list-style-type: none"> ・全身で遊ぶ ・仲間と力いっぱい遊ぶ ・競い合ったり応援し合ったりする
基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳やミルクを十分飲み安心して眠る ・オムツ交換など、体を清潔にしてもらい喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムができてくる ・離乳食から幼児食へ進む ・排泄を表情やしぐさで知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の手助けを得て身の回りのことを自分でしようとする ・自分で食べるようになる ・排泄の自立へと向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、排泄、衣類の着脱が、ほぼ自立する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でする ・ルールやマナーを理解し始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった生活ができるようになる ・聞く姿勢、待つ態度が育つ ・進んで挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓を進んで行う ・清潔やマナーなどを自ら心がけるようになる ・いろいろな当番活動に取り組む
心の育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の心地よい体験で、情緒が安定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自我が芽生えるようになる ・好奇心が旺盛になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・強く自己主張する姿が見られる ・少し我慢ができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを楽しむ ・友達とのかかわりが多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊ぶ ・身近な人の気持ちができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心が育つ ・仲間の一人として自覚をもつ ・自立心が育ち、達成感や自己有能感がもてる ・規範意識が芽生える 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と意見を調整する ・友達と協力しながら活動する ・自分に自信をもつ ・その場にふさわしい言動がとれる
コミュニケーション能力・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・泣いたり笑ったりする ・語りかけに喃語やしぐさで応える ・模倣活動が芽生える 	<ul style="list-style-type: none"> ・しぐさや身振りで自分の気持ちを表現できるようになる ・語彙が増えてくる ・2語文を話し始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉のやりとりをする ・かんしゃくを起こしたり、意地を張ったりする場面がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いのままに感じたことを言い盛んに質問する 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや思ったことを言葉で伝える ・友達と会話を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて言葉を使う ・人の話をよく聞き、内容を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話をしっかり最後まで聞く ・考えたことや感じたことを話す
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・近づく物や動く物を目で追う ・歌や音に反応し喜ぶ ・身の回りのものに手を伸ばす ・親しい大人の言葉がわかるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を読んでもらうことを喜ぶ ・身の回りのものに手を伸ばす ・親しい大人の言葉がわかるようになる ・探索活動が盛んになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものや自然物に興味をもつ ・大人と一緒に模倣遊びやごっこ遊びをする ・探索活動が盛んになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の面白さがわかる ・色、形、数、量などの違いに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然など身近な環境にかかわる ・絵や記号への興味が出てくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究心をもち、試したり、工夫したりする ・ルールのある遊びに参加する ・遊びを通して文字や数字への関心が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことに興味をもち、やってみる

6か月未満

6か月～1歳3か月

体の育ち

- ・首がすわり、手足の動きが活発になる
- ・寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる

- ・座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が徐々に発達する
- ・腕や手足を意図的に動かせるようになる

基本的な生活習慣

- ・母乳やミルクを十分に飲み、安心して眠る
- ・オムツ交換など、体を清潔にしてもらい喜ぶ

- ・食事（授乳）・睡眠・排泄・遊びのリズムが安定してくる
- ・離乳食から幼児食へ徐々に移行する

心の育ち

- ・日々の心地よい体験（言葉かけやスキンシップ）で、情緒的な絆を形成する
- ・快と不快の感情が分化してくる

- ・特定の大人との応答的なかわりにより、情緒的な絆が深まる
- ・あやしてもらおうと喜ぶなど、やりとりが盛んになる
- ・人見知りをするようになる

コミュニケーション能力・表現

- ・泣いたり笑ったりすることで、気持ちを表す
- ・語りかけに应答し、喃語やしぐさで表現する

- ・身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求をしぐさや身振りで伝えようとする
- ・大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかるようになる
- ・模倣活動が芽生える

学びの芽生え

- ・近づく物や動く物を目で追う
- ・歌や音に反応し、喜ぶ

- ・親しい大人の言葉がわかるようになってくる
- ・身の回りのものに手を伸ばす
- ・周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる

保護者に伝えていきたいこと

子育ての楽しさ

- ・夢と希望がもてる子育てを！
- ・家族みんなが育児参加できる環境づくり
- ・保育所・幼稚園がそばにある安心感（子育て体験・相談）
- ・食育・徳育の大切さ
- ・子どもにとってのよい習慣とは何か（早寝・早起き・朝ごはん）

気をつけよう

- ・SIDS（乳幼児突然死症候群）
- ・ゆさぶり症候群

1歳3か月～2歳

- ・歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能が発達する

- ・生活リズムができてくる
- ・身の回りのことを自分でしたいという気持ちが出てくる（スプーンを使う・パンツをはくなど）
- ・排泄を表情やしぐさで知らせるようになる

- ・自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる（自我の芽生え）
- ・好奇心が旺盛になってくる

- ・大人の言うことがわかるようになる
- ・指指し・身振り・片言などを盛んに使うようになり、2語文を話し始める

- ・絵本を読んでもらうことを喜ぶ
- ・玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達する
- ・自分のものがわかる

依存→心の安定

- ・だだをこねるのは当然の姿、うんと抱きしめて
- ・「自分で自分で…」は自我の芽生え
- ・育ちには個人差があってあたりまえ
- ・子どもの安定は保護者の安心

2歳児

- ・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能が発達する
- ・指先の機能が発達し、ボタンはめなどをしようとする

- ・大人の手助けを得て、衣類の着脱、靴を履くなど身の回りのことを自分でしようとする
- ・自分で食べようとする
- ・排泄の自立へと向かう
- ・身近な遊具や生活用品の扱い方がわかり、使ったら片づけようとする

- ・自我の育ちの表れとして強く自己主張する姿が見られる
- ・少し我慢ができるようになる
- ・自他の区別、善悪の芽生えが見られる

- ・発声が明瞭になり、語彙が著しく増加する
- ・身近な大人や友達と簡単な言葉のやりとりをする
- ・かんしゃくを起こしたり、意地を張ったりする場面がある

- ・身の回りのものや自然物に興味や関心をもつ
- ・大人と一緒に模倣遊びやごっこ遊びを楽しむようになる
- ・好きなことを繰り返してやる
- ・絵本や紙芝居などを見たり聞いたりする

気をつけよう

- ・家庭内の事故
（やけど・転落・誤飲など）

3 歳 児

体の育ち

- ・基本的な運動機能が伸びる
- ・全身のバランスがとれてくる
- ・その場で片足跳び・ボールを蹴る
- ・簡単な折り紙を折る

基本的な生活習慣

- ・食事・排泄・衣類の着脱などが、ほぼ自立できるようになる

心の育ち

- ・自分の好きな遊びを楽しむ
- ・友達とのかかわりが多くなる
- ・自我が、よりはっきりしてくる

コミュニケーション能力・表現

- ・思いのままに感じたことを言い、盛んに質問するようになる
- ・自分なりに感じたことや思ったことを表現する

学びの芽生え

- ・絵本や童話など、見たり聞いたりして内容やおもしろさがわかる
- ・知的興味や関心が高まる
- ・生活の中で、色・形・数・量など、違いに気づく
- ・大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れる

4 歳 児

- ・全身のバランスを取る能力が発達し、体の動きが巧みになる
- ・様々な運動・遊びに自分から取り組む（片足けんけん・スキップ・目標に向かってボールを投げる など）
- ・遊具や用具の使い方に慣れる
- ・簡単なルールのある遊びを楽しむ

- ・生活に必要な習慣が身につき、自分でできることは自分で行う
- ・気持ちよく生活するためにルールやマナーを理解し始める

- ・友達と一緒に遊ぶ
- ・身近な人の気持ちがわかり、自分の気持ちに折り合いをつける
- ・少しずつ自分の気持ちをコントロールできるようになる
- ・規範意識が芽生える

- ・友達とのつながりを感じながら、会話を楽しむ
- ・経験したことや、思ったこと、感じたことを言葉で伝える楽しさがわかる
- ・想像力が豊かになり、目的をもって行動し、つくったり、かいたり、試したりするようになる

- ・自然など身近な環境に積極的にかかわる
- ・様々なものの特性を知り、それらとのかかわり方や遊び方を体得していく
- ・絵や記号への興味が出てくる

保護者に伝えていきたいこと

他律から自律へ→心のコントロール

- ・集団の中でつく力を見守る
- ・個性的な力を認める
- ・遊びの楽しさ

5 歳 児（前半）

- ・運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをする
- ・仲間とともに活発に遊ぶ
- ・危険な物や場所を知り、安全に気をつけて、遊具や用具を正しく使う

- ・見通しをもった生活ができるようになる（園生活のきまり・当番活動・遊びの準備・片づけなど）
- ・自分の体・衣服・遊ぶ場所などを清潔にしたり持ち物を整理したりする
- ・聞く姿勢、待つ態度が育つ
- ・自分から進んであいさつをする

- ・思いやりの心が育ち、お互いを認める
- ・仲間の一人として自覚や自信がもてるようになる
- ・自立心が育ち、達成感や自己有能感をもてるようになる

- ・状況に応じて、適切な言葉を使う
- ・人の話をよく聞き、内容を理解する
- ・自己主張のぶつかり合いの中から自分たちで解決しようとする
- ・感じたことをかいたり、つくったり言葉にしたりして表現する
- ・相手の気持ちや状況を感じる

- ・探究心をもち、自分なりに試したり工夫したりする
- ・目的に向かって友達と考えを出しながら遊びを進める
- ・一人一人がグループの中で役割を担う
- ・予測する力・工夫を凝らす力を発揮する
- ・身近な自然に触れ、美しさや季節の変化に興味をもつ
- ・ルールのある遊びに参加する

5歳児(後半) 接続期

- ・自分の力を出し、競い合ったり応援し合ったりして、全身を動かして遊ぶ
- ・様々な運動遊びを通して、進んで物事に取り組む
- ・意欲や達成感を得られるようになる
- ・目的に応じて遊具や用具を選び、安全に使う

- ・生活や活動の見通しがつくようになり、時間を意識し自主的に生活を進めようとする
- ・身の回りの整理整頓を進んで行う
- ・清潔を心がけたり、マナーを守って食事をしたりして心地よく過ごせるようになる

- ・意見を調整し、折り合いをつけて解決しようとする
- ・活動を振り返り、楽しかったことや頑張ったこと、工夫したことなどに気づき、満足感を感じる
- ・自分に自信をもち、よいことや得意なことを生活に生かす
- ・その場にふさわしい言動がとれる
- ・自分の成長を感じ、就学への喜びや期待を膨らませる

- ・考えたことや感じたことを相手にわかるように話す
- ・注意深く聞いて、内容を理解し行動する
- ・友達と役割を分担し、互いに考えを出し合い、協力して遊びや生活を進める
- ・感じたことや考えたことを様々な表現方法で工夫して表す

- ・遊びや生活の中に、文字や記号を取り入れる
- ・周囲の環境に興味や関心をもち、触れる・観る・試すなど試行錯誤する
- ・素材の感触や物の性質などに気づいたり調べたりして、その物の特徴をおもしろさとして感じる
- ・予測したり工夫したりしたことが実現することで満足感を味わう

就学期を迎えて

- ・生活習慣の自立
- ・就学への期待と不安
- ・友達の大切さ
- ・手がかからなくなったときこそ、心にかける

小学校1年生(接続期)

4・5月

6・7月

体の育ち

- ・運動することを喜ぶ
- ・仲間と力いっぱい遊ぶ
- ・様々な遊び(動き)ができるようになる

- ・全身を動かして遊び、進んで物事に取り組む意欲と達成感を得る
- ・自分の力を精いっぱい出し、競い合ったり力を合わせたりする

基本的な生活習慣

- ・学校での生活や活動の見通しがつくようになり、自主的に行動する
- ・身支度、配膳を自分でし、基本的なマナー(時間)を守って、食事をする
- ・身の回りを清潔に保つ習慣をつける
- ・様々な学習規律を知る
- ・身の回りの整理整頓をする
- ・掃除や給食当番など自分たちでできる活動に取り組む

- ・時計を見て行動できるようになる
- ・時間の感覚や見通しをもって生活できるようになる
- ・食事のマナーを守って、友達と楽しく食べる
- ・学校生活のマナーやきまりの意味を理解する
- ・自分から進んであいさつや返事をする習慣が身につく
- ・進んで身の回りを整頓できるようになる
- ・学習用具をそろえ、忘れ物をせずに登校する

心の育ち

- ・友達とかかわることの楽しさを覚える
- ・友達の考えを自分の生活に取り入れる
- ・活動を振り返り、楽しかったことや頑張ったことに気づき、満足感を得る
- ・友達と協力しながら、活動する

- ・友達の気持ちがわかるようになる
- ・よいこと、悪いことの判断ができるようになる
- ・困難があっても乗り越えようと努力できるようになる

コミュニケーション能力・表現

- ・大きな声で、はっきり話す
- ・考えたことや感じたことを先生や友達に話す
- ・尋ねられたことに答える
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」が言える
- ・相手の話をしっかり最後まで聞く
- ・楽しく歌ったり、踊ったりする
- ・描く、塗る、切るなどの基本的な造形感覚を身につける

- ・自分の気持ちを言葉で伝え、友達とかかわることができるようになる
- ・「です」「ます」を使った丁寧な言葉づかいができる
- ・自分以外の周りの様子を理解し、困っている友達を助けることができる
- ・歌う、演奏するなど音楽で表現することを楽しむ
- ・見たことや感じたことをのびのびと描き、様々な材料を使って工夫して製作をすることができる

学びの芽生え

- ・いろいろなことに興味をもち、やってみる
- ・友達と一緒に学ぶ楽しさを知る
- ・本を読んでもらうことから、自分で読むことも好きになってくる
- ・一つのことについて一定時間(10分~15分)集中して取り組む

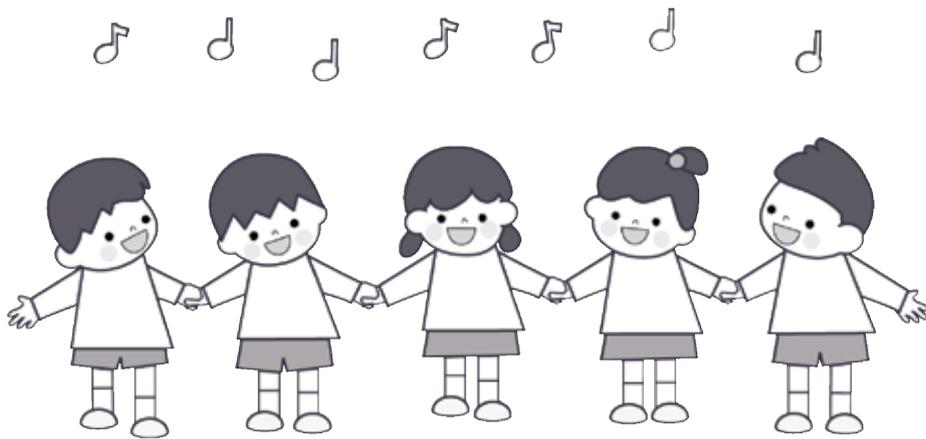
- ・様々な事象に興味をもち学習できる
- ・「わかった」という喜びを感じ、進んで学習しようとする
- ・一人で読書を楽しむ
- ・一つのことについて20分集中して取り組む

保護者に伝えていきたいこと

- ・子どもの話を真剣に聞き、子どものよき理解者となる
- ・一緒に時間割を合わせ、翌日の準備の仕方を覚えさせていく
- ・早寝・早起き・朝ごはんの習慣などを身につける
- ・本の読み語りをし、本に興味をもたせていく
- ・一緒に家庭学習をする
- ・よいところを褒め、自信をもたせる
- ・笑顔で元気に学校へ送り出し、子どもの安全な登下校に配慮する

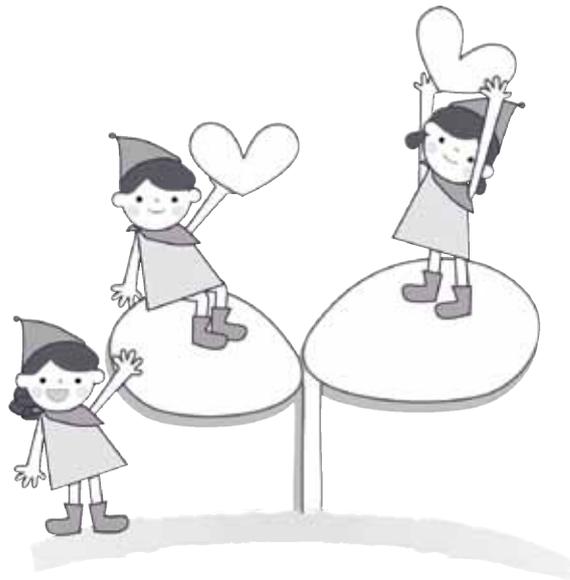
第3章

保幼小連携 接続カリキュラム



I 保育・指導のポイント

- ・ 5歳児後半期の保育のポイント
- ・ 小学校入学期の指導のポイント



5歳児後半～小学1年生前期前半の接続期に焦点を絞って、保育・指導のポイントを記載しています。

5歳児後半期の保育のポイント

時期	10 ・ 11 ・ 12 月	
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年長児としての自覚をもち、見通しをもって活動できるような言葉かけをしたり、集中して話を聞けるような環境を整えたりする。 ・ 友達と一緒に共通の目的をもって、協力したり分担したりして、意欲的に遊べるように援助する。 ・ 様々なグループ活動を行うことで、遊びや友達とのかかわりがより深まるように援助する。 ・ 子どもの成長を見逃さず、タイミングよく認め励ます。 	
生活する力	教室・保育室環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の流れ、行事までの予定を掲示し、見通しをもてるようにする。 ・ 活動によって、机や椅子の配置を工夫し、保育室前面を意識できるように配慮する。 ・ 個人の持ち物の置き場所には名前を表示する。 ・ 子どもが意欲的に遊びを展開できるような素材を準備しておく。 ・ 自分たちで活動や生活に必要なものを準備できるように、子どもたちと相談しながら遊具の場所や置き方を考え、整える。
	一日の流れ・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早寝早起きを意識できるようにし、決められた時間に登所(園)する。 ・ 時計や音楽で活動の区切りを意識できるようにする。 ・ 子どもが見通しをもって自ら行動できるように、掲示などを工夫する。
	身の回りの始末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の持ち物や共有物の整理整頓がしやすいような表示や工夫をする。 ・ 靴、衣服の着脱、持ち物の整理など、自分のことは自分できちんとできるように援助する。
	食事・排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偏食・少食傾向にある子どもの差はあるが、栄養面の話などを取り入れ、いろいろな食材を食べられるようにする。 ・ 時間を意識して食べられるように時計や音楽などを活用する。 ・ 小学校との交流活動や就学時健康診断などで、小学校のトイレを使う機会を作るようにする。また、外出時に自宅以外のトイレや和式トイレに慣れておくことを保護者にも伝える。
かわる力	規範意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつし合う心地よさを知らせ、自分からあいさつができるようにする。 ・ 生活や遊びのルールを守り、友達との園生活を楽しめるようにする。また、公共の場でのマナーを知り、守ろうとする気持ちを育てる。 ・ 安全な生活を送るために、子ども自身が考えて行動できるように援助する。
	聞く・伝える・話す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手の方へ身体を向け、最後まで聞けるように、子どもたちの状態に応じて援助する。 ・ 自分の伝えたいことを素直に話せるような雰囲気を作り、一人一人に応じて言葉を添えたり言い方を知らせたりする。
	友達との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの中で起きる衝突や葛藤など、乗り越えられるよう、一人一人の気持ちを大切に援助していく。 ・ 友達とのかかわりの中で相手の思いや考えを理解し、自分の考えに折り合いをつけることができるように援助する。 ・ グループ同士のかかわりを広げることで、遊びや友達とのかかわりが深まるように援助していく。
	担任との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者から明るく元気にあいさつをし、声かけをする。 ・ これまでに築いた信頼関係をもとに安定した情緒で、友達や身近な人々などに能動的にかかわりがもてるように援助する。 ・ 一人一人の良さや持ち味を認め、自己有能感を育てるようなかかわりをもつ。
学ぶ力	学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や社会事象、身近な出来事などに興味や関心をもつようにする。 ・ 目的に向かって取り組むことで、意欲と達成感・満足感を味わう場面をつくる。 ・ 様々な出来事にふれる中で、子どもの気づきや疑問に思ったことに共感し、イメージを豊かにできるようにする。 ・ 文字や数に親しめるような環境と遊びを工夫し、子どもたちの気づきを促し育てていく。
	運動・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな運動遊びに興味を向け、自分なりの目標に向かって意欲的に取り組んだり、繰り返し挑戦したりできるような工夫をする。 ・ 自分の力を発揮して、友達と思いきり体を動かして遊ぶことを楽しめるように援助する。 ・ 一人一人の表現を大切にしながら、みんなで力を合わせて取り組む活動へと高まるようにする。

時期		1 ・ 2 ・ 3 月	
ポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重し、日々の保育の充実を図る。 ・自分たちで遊びを計画し、みんなで活発に取り組み、発展していきけるような場を子どもと共に作っていく。 ・一人一人の成長を認め、自信へとつなぎ、入学への喜びや不安を共に受け止めながら、新たなスタートに立つ子どもたちを温かく見守る。 ・保護者や小学校と連携しながら、一人一人に応じた指導をする。 	<p>卒園時におけるめざす幼児の姿</p> <p>○自分の成長を喜び、小学校生活に期待をもつ。</p>
生活する力	教室 保育 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで必要なものを整えたり再構成したりできるように、子どもたちの動きを捉えながら適切な援助をする。 ・椅子に座って活動する体験や立ち姿勢で並んで話を聞く機会を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に生活や遊びを進めていこうとする。
	一日の 流れ 生活	<ul style="list-style-type: none"> ・日にちや時間の流れがわかり、生活に見通しがつけられるように、掲示物等や言葉かけを工夫する。 ・自分で今するべきことを判断し、見通しをもって活動しようとする気持ちを見守り励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識し見通しをもって生活することができる。
	身の 回りの 始末	<ul style="list-style-type: none"> ・片づけや清潔にすることなど、その必要性を理解し、自分から気づいて取り組めるように援助する。 ・自然や生活の変化に気づき、健康で安全に過ごすにはどうしたらよいか考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことが自分でできる。 ・衣服をたたみ、整理整頓をするなど、身の回りの持ち物の始末や管理ができる。
	食事・ 排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナーを身につけることや決められた時間内に食べ終わることなど、自分から意識して取り組めるように援助する。 ・食物アレルギーに対して子ども自身が認識し、伝えられるようにする。 ・保護者と連携しながら、毎朝、排便する習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢や箸の持ち方など、食事のマナーを守り、何でも食べる。 ・自宅や園以外のトイレや和式トイレを使うことができる。
かわる力	規範 意識	<ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつができたことやルールを守って行動できたことを認め、励ましていく。 ・通学路を安全に歩けるような機会をつくる。 ・いのちの大切さについて、繰り返し、話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びのルールを守り、友達との活動を楽しむ。 ・お別れ会、卒園式など、その場にふさわしい態度で臨む。
	聞く・ 伝え・ 話す・ 合う	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や呼びかけに対し、はっきり話す。 ・自分の思いを相手に伝えたり、相手の話をしっかり聞いたりできるように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを言葉で伝える。 ・人の話を最後まで聞いて、理解する。
	友達 との 関係 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶ中で、相談したり、工夫したりして、お互いを認め合いながら満足感や充実感が味わえるように配慮する。 ・相手の気持ちを考えながら、話したり聞いたりして、互いに自分の感情をコントロールできるように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を最後まで責任をもって行う。 ・友達同士で遊びを計画し、工夫して進めようとする。
	担任 との 関係 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの成長を見守ってくれた家族やまわりの人々に感謝の気持ちをもつように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の指示に沿って活動することができる。
学ぶ力	学びの 芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に活動していく中で、自分以外の人の考えを取り入れたり、刺激を受けたりして、より発展できるような配慮をする。 ・身近な植物や生き物の変容などから、季節の移り変わりを感じ、身近な自然物を使った遊びを存分に楽しめるようにする。 ・文字や数については、遊びの中で興味の高まった機会をうまく捉え、楽しく表現する場を工夫する。 ・自分の名前を読み書きなどから、文字への関心を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事物・事象・文字や数、数量に関心をもち、遊びや生活に取り入れようとする。 ・季節の変化に気づき、自然の不思議さに気づく。 ・「できた」という喜びを感じ、「やってみよう」という意欲をもつ。
	運動・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・困難だと思うことや経験したことがないことでも、挑戦してみようとする気持ちをもつようにし、達成するまでの援助を一人一人に応じて対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを言葉や動きで表現し、みんなで共通の目標に向かって取り組む楽しさを感じる。

小学校入学期の指導のポイント

時期	4 ・ 5 月	
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初の不安な気持ちに寄り添い、ほめる機会を多くもつ。 ・学校・学級のきまりや、集団での行動のしかたを一つ一つ具体的に指導する。 ・学級の友達とのかかわり方について、観察と指導を行う。 ・保護者や保育所・幼稚園と連携しながら、個に応じた指導をする。 ・毎日、振り返りをさせながら自信をもたせると共に、新しい課題を知らせ、意欲をもつようにする。 ・運動会などを通して、集団で活動したり、よさを発揮したりできるようにする。 	
生活する力	教室環境	<ul style="list-style-type: none"> ・教室前面や壁面の掲示・装飾は、必要最小限のものにとどめ、児童の集中を欠くことがないように配慮する。 ・話を聞くとときや書くときには、姿勢に注意するように声をかけ、机・椅子での学習に慣れるようにする。 ・机・椅子には、一人一人の名前をはっきり表示すると共に、床に印をつけ、整えやすいようにする。
	一日の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起きをして、決められた時間に元気に登校できるようにする。 ・入学当初は、45分間での1教科にこだわらず、児童の興味関心や集中できる時間に応じて柔軟に対応する。 ・活動の見通しが立てられるように、「時計の長い針が5までやります」など、あらかじめ伝えておく。 ・時間割表やチャイムでの生活に、少しずつ慣れるようにする。
	身の回りの始末	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割に合わせて教科書をもたせ、ノートは必要に応じて使用を始める。 ・道具箱の中身、共有物の整理のしかたは、丁寧に説明すると共に、朝の会や帰りの会などで確認する。 ・週末に持ち帰る物について指導し、忘れないでできるようにする。 ・体操服の着替えのしかたを指導し、時間を意識してできるようにする。 ・使った物は、元に戻す習慣がつくように指導する。
	食事・排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・机の準備・手洗い・白衣の着用など、給食前の準備から一つ一つ丁寧に指導する。 ・偏食・少食傾向にある児童には、給食に対するストレスをなくし、徐々に食べられるようにする。 ・食物アレルギーの把握を確実にする。 ・トイレの使い方を一斉に指導し、その後は休み時間のたびに声をかける。 ・保護者と連携しながら、毎朝、排便して登校できるようにする。
かかわる力	規範意識	<ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつができたことやルールを守って行動できたことを認め、励ます。 ・学習や生活でのルールは、はじめは最小限にし、それらのことを意識して行動できるようにする。 ・安全に登下校することやいのちを大切にすることなど、繰り返し指導する。
	聞く・話す・伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・「背筋ピン」など、児童がイメージしやすい言葉をつかい、学習に臨む姿勢を指導する。 ・「はい」という返事をしたり、手を挙げて発言したりすると共に、全員で声をそろえたり、返事をしたりできるようにする。 ・声の大きさや話の聞き方など、一つ一つ丁寧に指導する。
	友達との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは担任がかかわり、遊びなどを通して、徐々に子ども同士の関係を深めていく。 ・学級の実態に応じて、学級集団での遊びやゲームなどを取り入れる。 ・登下校時や学童保育、下校後の友達関係などについても把握し、望ましい関係へと導く。
	担任との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が進んで元気なあいさつをしたり、集団遊びなどにも積極的にかかわったりする。 ・授業だけでなく、いろいろな場面で担任との親密な関係づくりをする。 ・一人一人と握手をしたり、ゲームや歌を歌ったりして、かかわる機会を積極的につくる。
学ぶ力	芽生えの学び	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことを一つ一つ認め励まし、学ぶ楽しさを味わうようにする。 ・学習用具の置き方や鉛筆の持ち方など、一つ一つ丁寧に指導する。 ・一つ一つの学習や作業に対して、丁寧に取り組む姿勢を身につけるようにする。
	運動・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼遊びやリレー遊びなど、ルールを守りながら思い切り身体を動かす運動を行うようにする。 ・朝の時間や音楽の時間など、歌を歌ったり、身体を動かしたりする機会を多く設ける。 ・クレヨンや色鉛筆を使って丁寧にぬることや、はさみやのりの基本的な使い方を指導する。

時期		6 ・ 7 月	
ポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での学習や生活のリズムに慣れるようにする。 ・ 家庭と連携しながら、自分のことは自分でできる力を育む。 ・ 自分たちで安全に登下校できるようにする。 ・ 学校・学級のきまりを守り、してはいけないことはしないように指導する。 ・ 楽しく登校し、落ち着いた学習や生活ができるようにする。 	前期前半の終了時におけるめざす児童の姿
生活する力	教室環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会の絵やひらがなの書き方、あさがおの観察など、日々の学習のあしあとなどの掲示を工夫する。 ・ 正しい姿勢で、学習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任や黒板に向かって、集中して学習できる。
	一日の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気に登校し、学習の準備ができるようにする。 ・ 学習時間と休み時間を切り替え、時間割での生活に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週日課時程に慣れて行動できる。
	身の回りの始末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具箱やロッカーが整理されているか、不足しているものはないかなど、確認できるよう指導する。週末は、持ち帰る物についての意識化を図る。 ・ 水着への着替え、始末が時間内にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と一緒に学習用具をそろえ、忘れ物をしないで登校できる。 ・ 自分の持ち物を大切に使うことができる。
	食事・排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた時間で食べ終わるように、声かけをする。 ・ 毎朝、排便して登校できるようにすると共に、休み時間にトイレをすませるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食に慣れ、楽しく会食できる。 ・ 毎朝、排便をして登校できる。
かかわる力	規範意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつや「はい」の返事などが明るく、元気にできるようにする。 ・ きまりを守り、してはいけないことはしないことを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きまりを守って、安全になかよく生活できる。
	聞く・伝える・話す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話す・聞く」などの学習のルールが身につくよう指導する。 ・ 音読や朝の会・帰りの会などを通して、一人一人が話す・聞く機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す人を見て、静かに聞くことができる。 ・ 「です・ます」などを使った言葉づかいができる。
	友達との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業や様々な活動を通して、友達となかよくし、協力できるようにする。 ・ 縦割り活動では、異年齢の友達とのかかわりを学習し、集団生活の意識を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達となかよく、思いやりをもって接することができる。 ・ 自分勝手な行動はとらない。
	担任との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から進んで、あいさつをしたり、話したりできるようにする。 ・ 担任以外の教職員ともコミュニケーションがとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任以外の教職員にも、あいさつをしたり、話したりできる。
学ぶ力	芽生えの	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがなを書くことや、音読や計算ができるように、個に応じた指導をする。 ・ 教科書やノート、学習用具などを使った学習に慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 45分間、落ち着いて学習に取り組むことができる。
	運動・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水遊びでは、楽しく活動できるようにする。 ・ 生活・図工・音楽科などの学習で、自分なりに楽しく表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まわりの友達と一緒に楽しく体を動かしたり、表現したりすることができる。

Ⅱ 保幼小連携 接続カリキュラム (実践編)



*これに記載している内容は、保育・教育に携わる上での活動の参考にし、それぞれの現場の特性に合わせてアレンジしてください。

*どの項目においても、家庭との連携を密にとることが大切です。

1 生活する力

環境の変化に適応する力や身辺自立・生活習慣に関する力

生活する力の理念＝「あふれる笑顔」（自立・安心感・満足感・解放感・達成感）

一人一人のよさや存在そのものを認められ、受け入れられ、愛されていると実感できる環境の中で、子どもは安心感や満足感を抱くことができる。安らぎの中に心から笑顔が生まれ、一つ一つ自分で試してみても満足感や達成感を味わい、やがて自立へと向かう。

全てはこの笑顔があふれる環境（信頼関係の確立）が大切である。



1 生活する力

① 保育室・教室環境

一人一人の子どもが安定した生活を送り、興味や関心をもったり、自己発揮したりできるような環境を構成することが大切である。

幼児の姿

- ・目で見て楽しめるような装飾や自分たちの作品などを取り入れた壁面構成などで、季節や行事を感じながら、明るい雰囲気の中で生活している。
- ・遊びに必要な遊具や用具を必要に応じて自分たちで出したり、片づけたりする。
- ・机や椅子は、常時並べてあるとは限らず、活動に応じて使用する。机は一人用机ではなく、多人数用机を使用していることが多い。
- ・個人の持ち物は、決められた場所に、自分で片づけることができる。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・様々な活動の中で、話の内容に興味や関心をもてるように工夫し、話し手の方を向いて落ち着いて聞く経験を取り入れ、活動のねらいに応じて机や椅子の並べ方や活用の仕方を考える。
- ・始業式など、いろいろな行事を通して、場に応じた態度で臨めるような機会を作り、経験を重ねる。
- ・小学校との交流活動の中で、様々な環境に興味や関心をもつことができるようにする。
- ・ホワイトボードなどを使用し、幼児が自分で理解できるような一日の流れを掲示し、見通しをもって行動できるようにする。
- ・季節感のある作品やカレンダー・ポスターなどの掲示・展示する場を設定し、知的好奇心を高めるとともに、共通の話題となる機会をつくり、掲示物への興味を高める。

	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保育室・教室環境	行事までの予定や週の予定、一日の流れなどを掲示する					
	椅子に座って活動する体験や立ち姿勢で並んで話を聞く機会を取り入れる					
	身の回りのものにひらがなや数字をつける 実物と物の呼び名が一致する					
	保育者の話を聞きながら掲示された文字を目で追う					



児童の姿

- ・教室では一人一人の机と椅子が決められており、黒板を向いて学習に取り組む。
- ・壁には、様々な情報（教育目標・学級目標・時間割・各種お便り・当番表・作品など）が掲示され、そうした掲示物から自分に関係する情報を読み取るようになる。
- ・教室には、様々な学習道具や教材などがあり、学習への興味や関心が高まる。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・机は、黒板に向かって列をつくる並べ方だけでなく、グループで机を合わせて座ったり一対一で向かい合って座ったりすることなども取り入れる。
- ・個人の机を管理するのは初めてであるため、一人一人の名前をはっきりと表示し、床に印をつけ、整えやすいようにしておく。
- ・本の読み語りなどの時には、机を使わずに担任を囲んで椅子のみで集まったり、床に座ったりして聞かせるのもよい。
- ・教室前面の壁面の掲示・装飾は、必要最小限のもの（鉛筆の持ち方・声のものさしなど）にとどめ、児童の集中を欠くことがないように配慮する。
- ・壁面は、入学当初は文字による情報より、明るい色合いの花や動物など、気持ちを和ませるような装飾を工夫する。

小学校			
4月	5月	6月	7月
<p>行事までの予定や週の予定、一日の流れなどを掲示する</p>			
<p>机の並べ方を活動に応じて変えるなど柔軟にする</p>			
<p>掲示物は細かい文字情報は避け、掲示物の色合いに配慮する</p>			

1 生活する力

② 一日の生活の流れ

一人一人の子どもの心が安定し自己発揮できるためには、生活リズムを確立し、見通しをもって生活できるような工夫が大切である。

幼児の姿

- ・登降園時間は、保護者の勤務時間や園バスの時間によって様々である。
- ・園内では、特別にチャイム等の合図はなく、活動の区切りは、各園のデイリープログラムにそって、園児の興味や関心を十分踏まえた保育者の声かけによって行動している。
- ・手洗いやトイレは、保育者の声かけや自主性により、活動と活動の区切りに行っている。
- ・身体の異常は、保育者が視診触診等で確認したり、自分から保育者に伝えたりする。
- ・一日の生活の流れを理解し、自分のことは自分でほぼできている。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・日にち、曜日、天気、一日の活動の流れなどを、朝の会などで確認したり、掲示したりして、一日の生活に見通しをもって行動できるようにする。
- ・幼児自身が活動に見通しや区切りがつけられるように、時計や音楽などを使い、工夫する。
- ・クラスで一緒の活動を行う時間、個々で楽しむ時間を意図的に組み合わせ、気持ちの切り替えができるようにする。
- ・保育所においては、徐々に午睡なしの生活リズムを確立する。
- ・早寝早起きを意識させ、4月以降の生活に身体が順応するように、家庭と連携して準備を始め、幼児が自分の健康についての関心を高めていくようにする。

	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一日の生活の流れ	→ 午睡なしの生活リズムを確立する（保育所）					
	→ 早寝早起きを意識する					
	→ 一日の生活の流れを確認したり掲示したりする					
	→ 活動の見通しをもって、片づけの時間などを意識して活動する					
	→ クラス全体で活動する時間、個々が主体的に活動する時間など、切り替えを意識する					



児童の姿

- ・登校から下校まで、基本的に集団での活動が続く。(8:15頃～15:20頃)
- ・チャイムを合図に1単位時間(45分間)続けて学習する。
- ・生活時程に定められた時刻を意識して、行動するようになる。
- ・授業の間の休み時間に、トイレや次の時間の準備などを行う。休み時間は10分間(昼休みは45分程度)の学校が多い。
- ・給食後の5校時も集中して学習している。
- ・清掃活動では、集団の一人として責任をもって活動している。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・朝は身体と心を目覚めさせる意味でも、簡単な体操や歌・音読などを取り入れる。
- ・入学当初は、1単位時間1教科ということにこだわらず、児童の興味関心や発達、集中できる時間に応じて柔軟にモジュールによる学習時間を工夫する。例えば、1単位時間45分を15分と30分に分けて、めりはりのある学習をする。
- ・活動の見通しが立てられるように、時計や時計の模型を活用し「長い針が5になったら、終わります」などと、あらかじめ伝えておく。
- ・チャイムを守る態度を育てるためには、授業終了時に児童一人一人が満足感をもって学習を終えられるように、授業の構成を工夫し、学習活動が不十分な状態で終了することがないように計画する。

小 学 校			
4 月	5 月	6 月	7 月
<p>→ 早寝早起きを習慣づけ、余裕をもって登校する</p>			
<p>→ 時程(チャイム・時計)に合わせて行動する</p>			
<p>→ 活動の見通しをもち、片づけの時間などを意識して活動する</p>			
<p>→ 学習と休み時間を切り替え、チャイム・時計を意識して行動する</p>			

1 生活する力

③ 身の回りの始末 (靴、衣服の着脱、持ち物の整理)

基本的な生活習慣は、毎日の繰り返しの中で定着してくる。家庭との連携をはかりながら、自分のことは自分でできる力を育むことが大切である。

幼児の姿

- ・ タオル・歯ブラシ・コップなどの個人の持ち物は、保育室の所定の場所に置き、必要に応じて使用し、毎日あるいは定期的に家庭に持ち帰って衛生的にしている。
- ・ 個別の道具箱などに、はさみ・のり・クレヨンなどを収納し、自分で整理整頓するように心がけている。
- ・ 衣服の着脱及び脱いだ服の始末は、決められた時間の中で自分で行う。
- ・ 園によっては、土踏まずの形成上、素足で過ごしているところもある。
- ・ 風邪の予防や身の回りの衛生面に関心が高まり、うがいや手洗いを進んでするようになる。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・ 登降園時に自分のバッグを自分で持つ、自分で翌日の持ち物の準備をする、各自の持ち物の管理をするなどの機会を取り入れながら、身につけるようにする。
 - ・ 自分の持ち物やロッカー（整理棚）、道具箱の中は保育者が確認して整え方を知らせ、意識して片づけができるようにする。
 - ・ 各自でハンカチとティッシュを持ち、いつも身につけるように声かけをする。
 - ・ 自分の服はきちんとたたんでおく習慣をつける。着替えの際は決められた場所や時間内で着替え終わることを意識し、身につけるようにする。
 - ・ 靴の脱ぎ履きは、できるだけ立ったままで履き替えられるように毎日の生活の中で習慣づける。
 - ・ 脱いだ靴は揃えたり、靴箱にきちんと入れたりする習慣をつける。
 - ・ トイレ使用后、脱いだスリッパをきちんと並べておくように習慣づける。
 - ・ 傘の扱いに慣れ、始末が一人でできるようにする。(雨水を振り払い、傘が開かないように留める。雨天時に傘をさして園庭を散策する。)
- ※ どの項目においても、家庭との連携が必要である。

	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
身の回りの始末	ハンカチ・ティッシュをポケットに入れて使う					
	脱いだ洋服をたたみ、決められた場所にしまう					
	登園後や降園前に荷物の整理を行う					
	自分の荷物の整理整頓をする					
	靴下、上履きを履いて生活する習慣をつける					



児童の姿

- ・学用品をはじめ、体操服、上履きなど、自分で管理する物が多くなり、ロッカーなどの場所に収納している。
- ・机の中は、道具箱を引き出し式に使い、整理整頓をしている。
- ・ハンカチ・ティッシュは、服のポケットに入れて使うようになる。
- ・体操服に着替える時は、休み時間など限られた時間の中で立ったまま着替え、脱いだ服をきちんとたたみ、椅子または机の上に整頓して置く。
- ・立ったまま下足から上履きに履き替え、靴をそろえて靴箱に入れる。雨の日は、傘の始末をして傘立てに入れる。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導の配慮・工夫

- ・入学当初は、自分専用で管理するものは最小限（教科書・ノート・筆箱・下敷き・上履き・体操服）にとどめ、徐々に増やすようにする。
- ・道具箱の中身、共有物の整理のしかたは図示するなどして丁寧に説明し、朝の会や帰りの会などで確認する。
- ・児童の実態によっては、使用頻度の低い物は担任が管理し、必要な時だけ配付したり、雑巾などは個人持ちにせず共用したりすることも考えられる。
- ・初期の体操服への着替えは、音楽が終わるまでに着替え終わるなど、時間を意識できるように工夫する。

小学校			
4月	5月	6月	7月
ハンカチ・ティッシュをポケットに入れて使う			
体操服の始末をする			
朝のしたく・帰りのしたくをする			
道具箱（引き出し）の中の整理をする			
靴下、上履きを履いて生活する習慣をつける			

1 生活する力

④ 食事・排泄

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うには、家庭との連携を図りながら、経験の違いによる個人差を配慮し、丁寧に指導することが大切である。

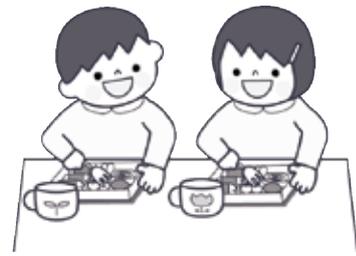
幼児の姿

- ・ 昼食は、概ね11時30分から12時頃に食べる。
- ・ 保育所では、副食給食で、主食（ご飯）を持参する場合が多い。幼稚園は、給食や弁当持参など様々である。
- ・ 年長児の給食時間は概ね30分間であるが、食事にかかる時間は個人差がある。
- ・ 給食の場合、規定の量を目安とした上で、個々に応じた量を考えて、主食・汁物・副菜・デザート（果物）などを配膳する。また、肉や野菜などの食材の切り方が、学校給食より細かい。園によっては、バイキング方式で、自分たちで配膳をする方式もある。
- ・ 配膳準備は、エプロン・三角布（帽子）をつけた当番が行う園もある。
- ・ トイレは、自由遊びの時は、行きたい時に行くが、活動の区切りに保育者の声かけで促されて行ったりする。
- ・ 排便の後始末が一人でできる。また、パンツやズボンを全部脱がずに排泄ができる。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・ 昼食が弁当持参の園では、保護者に協力を依頼して、園児の好きなものだけでなくバランスを考慮した食材を用いた弁当にし、極端な偏食・少食を改善するよう働きかける。
 - ・ 給食を実施している園では、園児ができる準備や片づけを当番制で経験できるようにする。
 - ・ 昼食の終了時間を意識して食べるように促す。
 - ・ 箸の使い方、食器の持ち方など、正しい食事のマナーが身につけられるように声かけをする。
 - ・ 朝、登園前に余裕をもって朝食をとり、排便する習慣をつけるよう、保護者に伝える。
 - ・ 活動の区切りの時間を利用するなど、次の活動の前に時間を設けて、ある程度決められた時間に排泄をすませるようにする。
 - ・ 意図的に和式のトイレを使用する機会をつくる。家庭や園で体験できない場合は外部施設の利用などを試みる。
 - ・ 機会あるごとに、生活リズムについてふれるようにし、起床・就寝、食事の時間・内容などを確認し、家庭と園で共通した指導方法を相互で確認する。
- ※ どの項目においても家庭との連携が必要である。

		保育所・幼稚園					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
食事・排泄					→ 昼食は時間を意識して、一定の時間内で食べる		
					→ 給食時、自分の食べられる量に合わせて配膳してもらい、残さず食べる		
		→ 極端な偏食や少食、過食を改善する					
				→ 手洗い・うがい・準備・後始末を確立する			
					→ 決まった時間にトイレに行く		
		→ パンツやズボンを全部脱がずに排泄し、排便の後始末が一人でできる 和式トイレの使い方に慣れる					



児童の姿

- ・給食は、決められた献立を好き嫌いなく20分程度で食べる。
(準備開始12:20頃、食事の開始12:40頃、終了13:00頃の学校が多い)
- ・給食の準備・片づけは、班を単位にした当番活動となり、自分たちで行う。自分が食べられる量に配膳してもらい、残さず食べるようにする。
- ・トイレは、休み時間を利用してすませる。衣服や下着を全部脱がずに、用をたす。また、和式便器を使うことが多い。

保育所・幼稚園での経験を生かした指導者の配慮・工夫

- ・机の準備・手洗い・当番の白衣着用など、給食前の準備から一つ一つ確認しながら行う。
- ・児童が行う配膳は、簡単なものからはじめ、入学当初は一人一人に配付できるものだけにするなど、段階をふんで指導していく。
- ・偏食・少食傾向にある児童には、自分で量を調節するなどして、給食に対するストレスをなくし、徐々に食べられる食品や量を増やしていく。
- ・最初のうちは、ゆとりをもてるよう給食の開始時間を少し早めにする。担任以外に専科の教員や6年生が補助に入る。
- ・トイレの使い方を一斉に指導し、その後は休み時間のたびに声かけをする。
- ・毎朝、排便してから登校できるように家庭との連携を図る。

小学校			
4月	5月	6月	7月
給食は時間を意識して、一定の時間内で食べる			
給食時、自分の食べられる量に合わせて配膳してもらい、残さず食べる			
極端な偏食や少食、過食を改善する			
手洗い・机の準備・配膳の仕方を学ぶ			
決まった時間にトイレに行く			
学校のトイレに慣れ、休み時間にすませる			

2 かかわる力

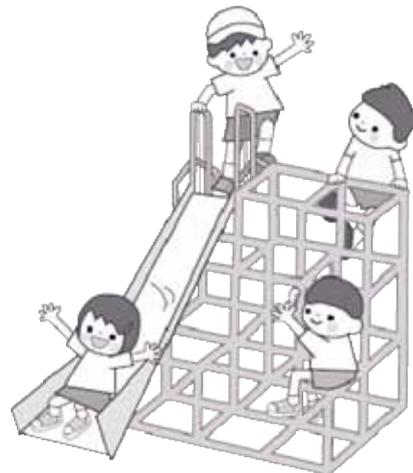
様々な人とかかわりあいながら自己を発揮し、

共に生活をつくり出す力

かかわる力の理念＝「しなやかな心」

(安定感・柔軟性・思いやり・協調性・道徳性・耐性)

子どもは、周りの人々とのかかわりや遊びの中で、様々な感情を体験していく。その中で、柔軟な発想や気持ちの切り替えができ、一人一人の違いや存在を認め受け止め、自分自身をコントロールする自制心や協調性や道徳性、また、困難に出会った時も立ち向かう明るさとたくましが身につくことが望まれる。そういう、しなやかな心が育つ環境が大切である。



2 かかわる力

⑤ 規範意識 (あいさつ、善悪の判断、生命尊重、安全生活)

様々な生活経験の中から、きまりや約束事など社会規範にかかわることに気づかせ、様々な人とのかかわりの中で、相手や周りの人への思いやりを育てていくことが大切である。

幼児の姿

- ・ 保育者や友達に自分からあいさつをする。
- ・ 園のきまりを守りながら、遊びに必要な約束やルールを自分たちで考え、生活している。
- ・ 小動物を飼育したり、野菜や花などを栽培したりするなど、命を大切にす気持ちが育つような活動をしている。
- ・ 交通安全教室や園外保育の活動の中で、交通ルールや公共の場所でのマナーを身につける。
- ・ 保護者の自動車やスクールバスなどに乗って通園する幼児が多い。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・ あいさつの仕方（立ち止まって相手を見てはっきりと）や返事の仕方、園生活のきまりを守ることの大切さをくり返し伝えていく。
 - ・ 言ってよいこと、悪いことなど、言葉のつかい方について意識できるようにする。
 - ・ 遊びや生活の中のトラブルが起きたときは、状況を見ながら幼児同士で考えさせ、自分たちで解決できるように援助する。
 - ・ 先生や友達と共に生活する中で、様々な葛藤の体験をし、幼児自身が考え、きまりや約束を守ることの大切さに気づいていくよう援助する。
 - ・ 日々の保育の中で、自分を大切にすること、他人への思いやりや感謝、生命の尊重などについて、話す機会を意図的に設ける。
 - ・ 散歩・園外保育や交通安全教室などの機会を通して、交通ルールを守れるようにする。また、保護者にも入学後一人で通学することを意識するよう働きかける。
 - ・ 立入禁止などの危険な場所については、子どもにわかりやすく表示し、生活の中でのきまりとして意識できるようにする。
 - ・ 避難訓練・不審者対策など、安全・危険の判断が必要な場面では、幼児自身が考えて行動できるように指導する。
- ※どの項目においても家庭と連携することが必要である。

	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
規範意識	自分からあいさつをする			立ち止まり相手を見てしっかりあいさつをする		
				様々な人との出会いの場ですすんであいさつをする 場面や相手に合わせてあいさつをする		
	してはいけないことや言ってはいけない ことがわかる			してはいけないことや言ってはいけないこと を自分で判断する		
	みんなで一緒に使うものを大切にする			きまりを守るために互いに譲り合う		
	動植物の世話をすすんで行う					
	安全指導・園のきまりを守りながら、生活する					



児童の姿

- ・担任や同級生だけでなく教職員・上級生など、自分とかかわる人が多くなるので、必要に応じたあいさつの言葉を、明るく元気に言う。
- ・授業を中心に、様々な場面で名前を呼ばれたら返事をする。
- ・学校・学級のきまり、休み時間の約束、遊びの約束など、きまりを守ることが集団生活の基礎となっている。
- ・飼育・栽培活動などを通して、生命を大切にすることが育っている。
- ・児童同士で活動する時間が増えるので、安全に気をつけ生活するようになる。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・日頃から教師が進んで元気なあいさつをする（特に朝のあいさつから指導する）。
- ・元気にあいさつができたことやルールを守って行動できたことを認め、励ましていく。
- ・生活や遊びのルールは、はじめは最小限にし、徐々に増やしながらそれらのことを意識して行動できるようにする。
- ・学校のきまりは保護者にも知らせ、共通理解を図る。
- ・生命尊重について、自らかかわろうとする場面を意図的に設ける。
- ・入学当初は安全指導に重点をおき、学校探検や交通安全教室及び、通学路を一緒に歩くことにより、校内・校区の危険な場所を確かめるようにする。また、集団下校ができるようにする。

小学校			
4月	5月	6月	7月
自分からあいさつをする 立ち止まり相手を見てしっかりあいさつをする			
様々な人との出会いの場ですすんであいさつをする 場面や相手に合わせてあいさつをする			
してはいけないことや言っはいけないことを自分で判断する			
みんなで一緒に使うものを大切にする きまりを守るために互いに譲り合う			
動植物の世話をすすんで行う			
安全指導・校内のきまりを知る・守る			

2 かかわる力

⑥ 聞く・話す・伝え合う

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことが大切である。

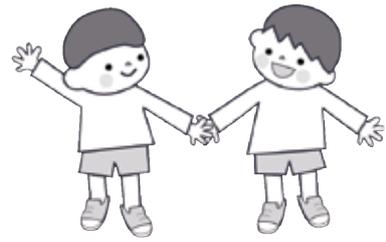
幼児の姿

- ・聞く・話す・伝え合う姿には、発達や経験に応じて個人差がある。
- ・保育者との信頼関係による安定した情緒を基盤に、自己を十分に発揮している。経験したことや感じたことを保育者に促されながら、自分なりの言葉で表現する。
- ・自分の気持ちを表すことや相手の気持ちに気づくことなどを、生活の中で経験している。
- ・自分の思いや気づきなど、話の内容が豊富になり、状況に応じて言葉がつかい分けられるようになる。
- ・人の話を理解しようとし、簡単な話し合いもできるようになってくる。
- ・保護者への連絡は、お便りや連絡帳に記入するなど、保育者から保護者へ直接行うことが多いが、簡単な連絡は子どもが直接伝えることもある。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・話を聞く態度は、話をしている人の方へ身体を向け、最後まで静かに聞くことができるようにする。
- ・社会事象に関心をもたせ、地域の人や様々な職種の人から話を聞く機会をつくる。
- ・集団で話を聞いたり、話したりする経験を多くさせると共に、個々に応じた対応をしていく。
- ・クラスやグループで話し合う機会（行事へのかかわり方、活動の相談など）を徐々に増やしていく。自分の考えを相手にわかるように話したり、友達の話最後まで聞いたりする態度を養う。
- ・言葉のやり取りを楽しむために、話を聞くだけでなく、自分の話を聞いてもらう喜びも体験できるようにする。
- ・美しい言葉や音楽にふれ、絵本の読み語りや歌うことを楽しめるようにする。

	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
聞く・話す・伝え合う	話し手の方に身体を向けて集中して聞く					
	自分の意見を発表する					
	みんなの前で話す経験をする					
	一日の中で読み語りを行う時間をもつ					
	お世話になっている人に感謝の気持ちを自分なりの言葉で伝える					



児童の姿

- ・担任の話最後まで黙って聞き、発問や指示などの言語情報を基に学習したり行動したりする。
- ・話したいことや質問したいことは、挙手をして指名されてから話す。
- ・自分が伝えたいことは、自分から進んで担任や友達に伝える。
- ・自分自身の経験や考えを発表する場面が入学当初からあり、徐々に、人前で話すことが多くなる。
- ・一対一で話を聞くだけに限らず、全体への話にも集中して話を聞けるようになる。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・読み語りなど、担任や図書ボランティアの方々の話を落ち着いて聞くことができる場面を意図的・計画的に数多く設定する。
- ・話を聞く隊形にも配慮し、本の読み語りなどは机に着席した隊形でなく、みんなで集まって座ったり、椅子だけを集めて座ったりするなど、園での隊形を取り入れるなどの工夫をする。
- ・指示を出す時は、最初はわかるまで繰り返し伝えるが、次第に回数を減らし、一回で聞けるようにしていく。
- ・朝の会や帰りの会の司会や簡単なスピーチなど、授業以外の時間も活用して一人一人が話す機会を設ける。
- ・発言の仕方やスピーチの話型（レベル表）を示したものを掲示する。

小学校			
4月	5月	6月	7月
話し手の方に身体を向けて集中して聞く			
自分の意見を発表する			
朝の会・帰りの会を自分たちで行う			
読み語りを意図的に設定する			
お世話になっている人に感謝の気持ちを自分なりの言葉で伝える			

2 かかわる力

⑦ 友達との関係づくり（協同的な経験）

協同的な学びの活動を存分に経験できるようにすると共に、生活や遊びの中で、自己発揮し、また、自己抑制できるように援助することが大切である。

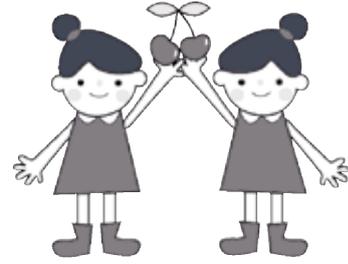
幼児の姿

- ・ 幼児同士で好きな遊びを見つけ、遊び方を考えたり、遊びに必要な言葉のやりとりをしたりしながら、友達とかかかわっている。
- ・ ドッジボール、鬼遊びなどルールのある集団遊びができる。
- ・ 遊びの中でのトラブルは、互いの意見を言ったり、相手の気持ちを聞いたりして、幼児同士で解決している。しかし、解決が難しい時は、保育者の援助が必要なこともある。
- ・ 行事などでは、年長児として、中心となって活動している。クラス単位での発表の経験もある。
- ・ 園での活動を通して、異年齢の人々とかかわり方を学んでいる。
- ・ クラス内での簡単な当番・係活動を通し、自己有能感・責任感が育つ。
- ・ 共通の目的に向かって、友達と役割分担したり協力したりして、みんなで創り上げる喜びを味わうようになる。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・ グループ製作や行事での係活動、劇遊びや合奏など、目的に向かって友達と協力して取り組み、やり遂げる経験を多くする。
- ・ 友達との遊びの中で、きまりや約束を意識できるようにする。
- ・ 園内では、いろいろなグループ活動を通して、リーダーシップを発揮できるようにする。
- ・ 協同的な活動の中で、自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを受け入れたりする経験を多くする。
- ・ 人とかかわりの中で、自分の考えや気持ちを言葉にして相手に伝えたり、相手の話を聞いたりし、どうしたらよいか考えることができるようにしていく。
- ・ トラブルの状況や幼児の様々な体験を捉えながら、それぞれの幼児の主張や気持ちを十分に受け止める。そして、互いの思いが伝わるように折り合いをつけ、納得して気持ちの立て直しができるようになるための援助をする。
- ・ 友達との協同的な遊びや活動を通して、互いの生活を共に創り出していく楽しさが味わえるようにする。
- ・ 活動に応じて、自分たちで環境を変化させていけるように援助する。

友達との関係づくり	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	→ 日常の当番活動や行事における役割を分担し責任をもつ					
	→ 友達と一緒に劇遊び・合奏などに取り組み発表する					
					→ クラス全体で楽しさを感じられるような遊びを多く取り入れる	



児童の姿

- ・学級内での係や当番活動、グループ学習、行事など、学級集団で友達と協力し、めあてに向かって活動することが増える。
- ・時には、自分がやりたいと思うことでなくとも、友達と力を合わせて活動することが増えてくる。特に、自分勝手な行動や態度は注意を受ける。
- ・前期には、当番活動や係活動を通して徐々にいろいろな友達と協力し、仕事をする。
- ・縦割り活動では、異年齢の友達とのかかわり方を学習し、集団生活の意識を高めている。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・休み時間には、はじめは担任がかかわり、集団遊びなどを通して、徐々に担任と児童及び児童同士の関係を深めていく。
- ・同じ保育所・幼稚園出身の児童を十分に把握し、席替え・グループ分けなどで意図的に違う園出身者で構成したり、同じ園出身者のみで構成したりする。
- ・年度当初の対人関係の不安を共感的に受け止め、隣同士の関係づくりからはじめ、学びや遊びの様々な場面を活用して人間関係を広げ、深めていく。
- ・登下校時や学童保育の友達関係についても把握する。
- ・学級活動や生活科の学習の中で、簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームなどを取り入れて、出身の園が違う児童と一緒に遊ぶ機会をつくる。

小学校			
4月	5月	6月	7月
自分の当番活動や係活動を責任をもって行う			
各教科でのグループ学習や発表の機会を増やしていく			
学級での集団遊びを楽しむ			
自己紹介をする			

2 かかわる力

⑧ 担任との関係づくり

担任との信頼関係を基盤に生活することで心の安定が図られる。その上で、友達や身近な人々などに能動的に働きかけようとする力が発揮でき、社会性が育まれる。

幼児の姿

- ・保育者との十分な信頼関係を築き、安心して生活している。
- ・保育者との信頼関係を通して、遊びや生活全般の中で、人とのかかわり方、人への信頼感、相手の気持ちを思いやることを学んでいる。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・クラス全体で取り組む活動では、ルールを守ったり、合図を聞いて動いたりするなど、クラス全体の中での自分の行動を意識できるようにする。
- ・クラスの一員としての仲間意識をもち、係活動や行事の準備などで役割を果たす経験をする中で、自己有能感を育てるようにする。
- ・年長児として、様々な行事の中心になって活躍し、クラスという集団で行動しているという意識を高める。
- ・担任以外の職員など様々な人とかかわる力を養うために、コミュニケーションをとる機会を意図的につくり、社会性を育む。
- ・保護者に園の保育・教育方針や園での子どもたちの様子を話したり、家庭での様子を聞いたりしながら、相互理解に努め、信頼関係を築いていく。

	保育所・幼稚園					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
担任との関係づくり				園行事の際、クラス単位で並んだり、移動したり話を聞いたりする機会をもつ		
				クラス全体での活動は、担任と集団という関係の中で行動する		
	その子の良さを十分認める					
				卒園の喜びを共に味わう		



児童の姿

- ・児童と担任との関係は、一対一の関係もあるが、原則的に学級を単位としてあり、学級の一員としての行動が主となる。
- ・全校朝会や校外学習などでは、学級単位で整列して移動し、場面にふさわしい態度がとれる。
- ・体調が悪いときやけがをしたときは、自分でどこが痛いのか、どこでどのようにけがをしたのかなどを担任や養護教諭に伝えている。
- ・担任以外の教職員とも、コミュニケーションがとれるようになる。
- ・学級集団の人数が増え、自由に過ごす時間が減るので、担任を独占して話を聞いてもらうような機会が、就学前と比べて少なくなる。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・小学校では、主に授業を通して担任との人間関係をつくっていくが、入学当初はいろいろな場面で、担任との親密な関係づくりをしていく。
- ・集団遊びや読み語り、休み時間の会話など、担任が意図的・計画的に児童一人一人とかわかる機会を積極的に設け、信頼関係を構築する。
- ・担任も児童のグループに入って一緒に給食を食べながら、楽しく個人的に会話ができる時間をとる。
- ・下校時には、一人一人と握手をしたり、歌を歌ったりして、毎日明るい気持ちで楽しく登校する意欲をもたせる。

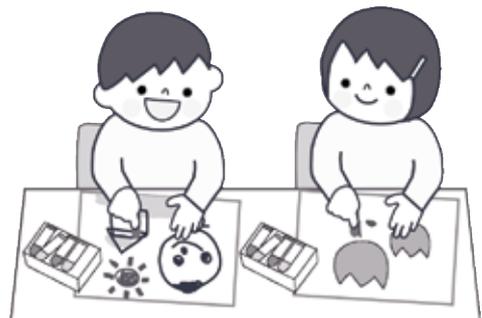
小学校			
4月	5月	6月	7月
休み時間など積極的にかかわり、集団遊びを楽しむ			
クラス全体での活動は、担任と集団という関係の中で行動する			
その子の良さを十分認める			
入学の喜びを共に味わう			

3 学ぶ力

学習の基礎となる興味や関心、意欲、能力などを発揮する力

学ぶ力の理念＝「かがやく瞳」（主体性・好奇心・積極性・創造性・探究心）

子どもは、もともと様々な環境に、自ら積極的・主体的にかかわろうとする力を持っている。実際、自分でまた仲間と試行錯誤しながら探究し創造し発見していく。そういうときは、瞳が輝いているものである。瞳が輝く環境が大切である。



3 学ぶ力

㊦ 学びの芽生え

様々な環境の中で、好奇心や探究心をもち、試行錯誤することで自ら学ぼうとする意欲を育むことが大切である。

幼児の姿

- ・身近な自然体験や社会事象、遊びを通して、直接見たり触れたりする経験の中で様々なことに気づいたり、試行錯誤したりして、知的好奇心や探究心が育っている。
- ・遊びや生活の中で、文字や数字への興味や関心をもって活動している。(トランプやカルタ遊び、日にちを読む、人数を報告するなど)
- ・絵本や紙芝居などを読んでもらう経験を通して、想像力が豊かになっている。
- ・園内の絵本コーナーや地域の図書館を利用し、絵本や図鑑を自分で選んでいる。
- ・四季の自然現象に直接触れたり、驚いたり、感動したりして、豊かな感性が育っている。
- ・童話の読み語りを楽しみにし、想像しながら聞いたり、続きを期待したりしている。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字に対してのかかわりを広げるようにする。
- ・保育室環境(掲示物)に、絵や写真に加えて文字環境を増やしたり、幼児の名前や物の名前を表示したりして、文字や数字への興味や関心を高めるようにする。
- ・文字や絵を使って、伝えることを楽しむ経験ができるような活動や遊びを取り入れる。(郵便屋さんごっこ、カルタ作りなど)
- ・カレンダーや時計などを活用して数字を読む経験を多くしたり、トランプやすごろくなどのゲームなどを取り入れたりと、数への興味や関心を高めるようにする。
- ・時計をもとに、活動時間の始まりと終わりを意識できるようにする。
- ・絵本コーナーを利用し、自分で好きな本を選んで読めるように環境を整える。
- ・共通の体験をしたときや休み明けなどには、自分の感想や体験したことなどを発表する場を設ける。
- ・クラスに図鑑を用意するなど、知的好奇心を高める環境を構成する。
- ・絵本の貸し出しや保護者による絵本の読み語りをすすめる。

		保育所・幼稚園					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
学びの芽生え					→ 遊びを通し、文字や数にふれて興味や関心を高める		
					→ ルールのある遊びを通して、得点(数字)を意識して遊ぶ		
		→ まわりの植物や虫の様子などから、季節の変化を感じていく					
		→ 身近な植物や小動物の成長に興味をもって世話をする					



児童の姿

- ・入学後、ほどなくして学習を中心とする生活になり、教科書を使って系統的に学習する。
- ・入学当初から、自分の名前を読んだり書いたりする。
- ・6月頃から、黒板に書いてある連絡などを見てノートに書くことが始まる。
- ・発言の際には、挙手して指名を受けてから話をする。
- ・自分の考えを友達や先生に話したり、絵や文字でかいたりする活動が始まる。

保育所・幼稚園での経験をいかした指導者の配慮・工夫

- ・学習規律を学ぶ時は、キーワードを用いるなどして、児童にわかりやすく示す。
- ・できるようになったことを一つ一つ認め励まし、学ぶ楽しさを味わうようにする。
- ・授業では、児童の興味や関心を高める導入を丁寧に行うとともに、学び方や見通しを示す。
また、児童の学びを丁寧に見取って、ほめたり励ましたりして、学びへの自信をもつようにする。
- ・学級活動や道徳では、入学当初の指導に適した内容から指導するよう、年間指導計画を作成する。
- ・入学当初は、生活科の「学校探検」などの活動から他教科の学習に関連させるなど、総合的な指導を取り入れる。

小学校			
4月	5月	6月	7月
ひらがな・数字を習得する			
まわりの植物や虫の様子などから、季節の変化を感じていく			
身近な植物や小動物の成長に興味をもって世話をする			

3 学ぶ力

⑩ 運動・表現

子どもたちが興味や関心をもって、体を動かしたり様々な方法で表現することの楽しさや喜びを感じ、積極的に物事にかかわったり、困難なことを最後までやり遂げようとする意欲を育むことが大切である。

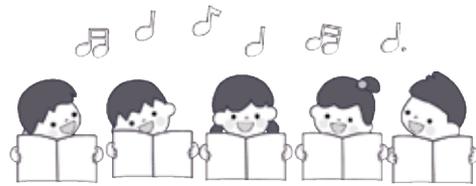
幼児の姿

- ・ 戸外遊びや園外保育の中で、全身を使って運動する心地よさを味わっている。
- ・ 保育活動の中で、簡単なルールのある遊びや器具を操作する遊びも経験している。
- ・ 運動遊びは、クラス全体で楽しむ遊びと個々にチャレンジする遊びがある。
- ・ 保育者と一緒に、巧技台やマットなどの準備・片づけを自分たちで行う。
- ・ クレヨン・色鉛筆・絵の具などを使って絵を描いたり、はさみ・のりを使って製作したりして、個人作品や共同作品で自分なりの表現ができる。
- ・ 様々な材料を使って、遊びに必要なものを自分たちで作る。
- ・ 友達と共通のイメージをもって共同製作を楽しんでいる。
- ・ 楽器遊びの中で、いろいろな楽器にふれ、音色の違いに気づき、使い方や扱い方を知る。
- ・ 誕生会やお楽しみ会などで、友達と一緒に歌ったり踊ったり、簡単な楽器の演奏をしたりする。
- ・ 見たり聞いたりしたことを遊びの中で再現し、イメージをふくらませて作ったり表現したりする。

楽しい学校生活を送るための保育者の配慮・工夫

- ・ 大縄・短縄・フラフープなどの遊具を使った遊びや、走る・跳ぶ・投げる・捕る・蹴るなど、いろいろな運動遊びを数多く経験させ、身体全体を使って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・ 運動遊びへの興味や関心を高め、新たな自分の力や友達の力に気づき、やればできる喜びを味わえるようにする。
- ・ ルールのある遊びの中で、思いきり自分の力を出したり、友達と競い合ったりすることを楽しむ経験を多く取り入れる（リレー遊び、ボール遊び、鬼遊びなど）。
- ・ 製作遊びを通して正しいはさみの使い方、のりの使い方、また、折り紙や手紙をきちんと折る、こま回しをするなど、手先の細やかな動きがスムーズにできるような経験を多く取り入れる。
- ・ 自分の好きな絵を描いたり、製作したりする経験を通して、表現活動を楽しめるようにする。
- ・ 鉛筆などにふれる機会をつくり、正しい鉛筆の持ち方を意識できるように手助けする。
- ・ みんなで歌ったり踊ったり楽器で演奏したりして、音楽に親しむようにする。

		保育所・幼稚園					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
運動・表現	ルールを守りながら運動遊びを楽しむ	→ チーム同士で競い合う楽しさを味わう					
	新しいこと・苦手なことにも挑戦しようと頑張る	→ (縄跳び・鉄棒・こま回し)					
	今までの経験をいかし、イメージを実現するために	→ 試行錯誤して作品に取り組む					
	ボール・縄跳び・固定遊具など、ある程度の目標を設定し	→ 繰り返しチャレンジする					
	劇・合奏など様々な表現活動を	→ 経験する					



児童の姿

- ・ 体育の時間だけでなく、休み時間に校庭の遊具など、器具を操作して遊ぶことが増える。けがの防止やよい姿勢の保持にもつながるよう、体力や身体のバランスのとれた動きができるようになる。
- ・ 図工・生活科等の学習の中でスケッチをしたり、形通りに切り抜いたり、貼り合わせたり、配付物の角を合わせて丁寧に折ったりするなど、手を使っての細かな作業が多くなる。
- ・ 伴奏に合わせてリズムよく歌ったり、演奏したりして音楽の表現をする。

保育所・幼稚園での経験を生かした指導者の配慮・工夫

- ・ 体育の時間や休み時間には、鬼遊びやリレー遊びなどルールを守りながら、思いきり身体を動かす運動を行うようにする。
- ・ 共通に経験したことがある集団遊びや手遊びなどを取り入れ、安心して自信をもって取り組むことにより、心をほぐし、学習につなげていく。
- ・ 朝の会など音楽の時間以外にも、みんながよく知っている歌を歌う機会を設けて、みんなが歌う楽しさを味わうとともに、もっと歌いたいという意欲をもつようにする。
- ・ クレヨンや色鉛筆を使って絵を描いたり、はさみやのりを使って工作したりすることを楽しめる活動を多く取り入れる。

小学校			
4月	5月	6月	7月
ルールを守りながら運動遊びを楽しむ チーム同士で競い合う楽しさを味わう			
新しいこと・苦手なことにも挑戦しようと頑張る（縄跳び・鉄棒・こま回し）			
今までの経験をいかし、イメージを実現するために試行錯誤して作品に取り組む			
校庭の遊具を使い、できることに自信をもち楽しむ			
劇・合奏など様々な表現活動を経験する			

第4章

交流活動



I 交流活動とは

交流するにあたっては、保育所・幼稚園にとっても、小学校にとっても意義のある活動になるよう、互恵性を意識してすすめる必要があります。子ども同士の交流では、幼児は児童にあこがれを抱き、小学生は乳幼児の世話をする経験をするなど、それぞれの成長に寄与するものでなくてはなりません。また、相互にとっての教育的意義やねらいを明確にし、年間交流計画を作成する必要があります。

そこで、保育所・幼稚園と小学校双方の事務分掌に「保幼小連携担当者」を位置づけると共に、保育・教育課程の中に「保幼小交流」に関する内容を盛り込むことが望ましいと思われまます。

交流活動をすすめる上では、子ども同士の交流も大きなねらいですが、保幼の保育者と小学校の教師が保育・授業を共につくる中で、それぞれの保育・教育活動の内容や方法について、十分に理解を深めていくことが大切です。「保育所・幼稚園での保育・教育活動も小学校での教育活動も、それぞれに意義のあることを行っているが、発達段階が違うゆえにそのやり方、子どもへの接し方などが異なる」ということへの理解です。子ども同士も保育者・教師同士も、互いを知り、互いのよさを共有し、滑らかな接続へつなげることが交流活動の最も重要とするところです。

本市ではこれまでも保幼小交流に取り組んできました。そこで、その取組内容について参考資料を提示いたします。

II 交流活動の視点

幼児が小学校の施設や人に慣れることは、入学後の生活への期待感を高めると共に、入学までの期間に幼児がどのような目標をたて、それに向けて努力をするかなど、具体的なめあてをもつことにつながります。また、児童にとっても、幼児とのかかわりの中で自分の成長に気づいたり、年少者への思いやりの気持ちを育んだりすることが期待できます。

交流活動は、交流する保育所・幼稚園と小学校の立地条件によっても異なります。保育所・幼稚園と小学校の施設が隣接している場合と離れている場合です。後者の場合、移動するのに時間がかかり、様々な配慮が必要になり、交流の頻度や方法、内容が違ってきます。

交流内容は、大きく3つに分かれます。給食交流や体験授業、行事参加など「幼児・児童の交流」、校庭や体育館、トイレ、図書室などを利用する「施設利用」、合同研修会や保育・授業参観、情報交換（お便り交換・ケース会議など）や交流前後の話し合いなど「指導者間の交流」です。これらの3つをバランスよく計画することで、より一層の交流活動による成果が期待できます。

交流活動の3つの視点

幼児・児童間

- ・給食交流
- ・体験授業
- ・行事参加

施設利用

- ・校庭・体育館
- ・トイレ
- ・図書室

指導者間

- ・合同研修会
- ・保育・授業参観
- ・情報交換や
交流前後の話し合い

III 交流活動実践事例

1 清掃の仕方を学ぼう！小学校の給食を食べてみよう！

【九文幼稚園児と大久保小1、2年生の交流】 (平成23年度佐世保私立幼稚園教師研修会)

①交流活動記録

●…園児の活動 ◆…小学生の活動 ○◇…教師の援助

<p>1 活動名 「清掃の仕方を学ぼう！」「小学校の給食を食べてみよう！」</p> <p>2 ねらい ①小学生に雑巾の絞り方や床の拭き方を学び、部屋を綺麗にすることに興味を持つ。 ②学校給食を体験し、配膳から片付けまでの流れを知る。</p>		
時間・活動の流れ	園児の活動	小学生の活動
<p>10:30 はじめの式</p> <p>①はじめの言葉(1年生)</p> <p>②清掃のグループに分かれ移動・自己紹介</p>	<p>●清掃のグループに分かれ、整列する。</p> <p>●円を作り、それぞれ自己紹介を行う。</p> <p>●自分の雑巾を持ち、清掃場所へ行く。</p> 	<p>◆1年生代表者があいさつをする。</p> <p>◆清掃のグループに分かれ、整列する。</p> <p>◆円を作り、それぞれ自己紹介を行い、2年生が「お掃除反省カード」に名前を記入していく。</p> <p>◆2年生が先頭、1年生が園児の後ろへつき、清掃場所へ移動する。</p> 
<p>10:50 清掃</p> <p>〈清掃箇所〉</p> <p>① 1年教室</p> <p>② 2年教室</p> <p>③ 廊下、階段</p> <p>④ 理科室</p> <p>⑤ 図工室</p> <p>⑥ なかよし学級</p>	<p>●雑巾の絞り方に興味を持ち、教えてもらいながら実際に絞る。</p> <p>●雑巾が上手く絞れず戸惑う。</p> <p>●きちんと絞れたか、お兄さん、お姉さんに確認してもらう。</p> <p>●小学生の真似をしながら取り組む。</p> 	<p>◆雑巾の絞り方について教える。</p> <p>◆雑巾が絞れない園児には、手を添え一緒に絞る。</p> <p>◆園児全員が雑巾を絞ることができたか確認する。</p> <p>◆床拭きの仕方について教える。</p>
<p>【活動の様子】</p> <p>園児は、幼稚園でも当番活動の一つとして清掃をしているが、雑巾を半分に畳んで絞ることや、手首を使って絞ることなど、小学生から絞り方について細かく教えてもらおうと、とても興味を持ち、実践する姿が見られた。力が入らず、なかなか絞ることができない園児に対し、小学生は、園児の手を握り一緒に絞って手伝ったり、床を斜めに横断して拭いている園児には、板目に沿ってまっすぐ床を拭くことを教えたりしながら、清掃を行っていた。</p> <p>また、園児は清掃活動を張り切って行う中、黒板消しをしている小学生や机や椅子を運んでいる小学生を見て興味を持ち、「一緒にする」と声をかけ意欲的に取り組んでいた。</p>		
<p>11:20 清掃終了反省会</p>	<p>●雑巾を洗い、反省会に参加する。</p> <p>●小学生の質問に返答しながら、一緒に反省会を行う。</p>	<p>◆清掃用具を片付け、反省カードに清掃の出来栄を園児に聞きながら記入する。</p>

両手でしっかり絞ってね！

<p>11:30 給食準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●体育館へ戻り、トイレに行く。 ●スモック、マスクを着用し、水筒を持って整列する。 ●昼食場所へ移動する。 みどり組、ふじ組（半数）→家庭科室 あい組、ふじ組（半数）→図工室 ●着席し、配膳準備の様子を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆体育館に園児を移動させ、その後昼食場所へ移動する。 ◇昼食場所へ移動し、配膳を行うよう指示し、共に準備を行う。 ◆全員エプロン、マスクを着用し、園児分も含め、配膳を行う。
<p>12:00 昼食</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>給食メニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポークカレー ・だいこんサラダ ・ドレッシング </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●今日の給食のメニューを開き、期待を持つ。 ●昼食をとる。 <p>○食べ終えた園児から食器を片付けるように促し、片付けの仕方を教える。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆給食当番は今日のメニューを発表し、あいさつをする。 ◆昼食をとる。 <p>◇食べ終えた園児から食器を片付けるよう指示し、園児に片付けの仕方を教える。</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>カレー美味しい！！ おかわりしたい♪</p> </div>
<p>【活動の様子】</p> <p>当番が皿にご飯やおかずを盛る姿など、初めて見る配膳の様子に園児は感心して見ていたが、美味しそうな給食の匂いに夢中になり、給食への期待が膨らんでいた。</p> <p>実際に試食すると、温かくて美味しい給食に園児は大喜びしていた。また、「おかわりしたい！」という園児も多かった。試食会は初めての試みであったため、給食の量は少なめにした結果、ほとんどの園児が30分以内には食べ終わり、昼食後は小学生との会話を楽しんでいた。</p>		
<p>12:40 片付け</p> <p style="text-align: center;">あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●食器の種類別で片付けることを知り、関心を持つ。 ●あいさつをする。 ●給食室の前に整列し、給食職員にお礼のあいさつをして体育館へ戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆食べ終えた児童から片付ける。 ◆給食当番はあいさつをする。 ◆食器を給食室まで運ぶ。
<p>13:00 おわりの式 おわりの言葉（2年生）</p> <p>13:10 解散</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●整列して、小学生の片付けが終わるまで待機する。 ●教師の号令を合図に全員でお礼を言う。 ●小学生に手を振ったり、タッチしたりしながらトンネルをくぐる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆体育館へ移動し、整列する。 ◆2年生代表者があいさつをする。 ◆教師の号令を合図に全員でお礼を言う。 ◆玄関で園児を見送る。

②考察

- ・清掃活動では、雑巾の絞り方、床の拭き方を教わるだけでなく、清掃の目的や清掃することの大切さも学ぶことができた。幼稚園での清掃活動では、教わったことを実践したり積極的に身の周りを綺麗にしたりする姿も見られ、園児の行動に変化が見られた。
- ・給食試食では、給食にどんなメニューがあるのか、おかわりができるのかなど、給食に対する質問の場があれば、さらに小学校給食について知ることができるのではないかと思う。
- ・小学校給食の美味しさに、入学してからの楽しみが一つ増えたようで「早く小学校に行きたい」と言う園児が増えた。また、小学生が配膳をする様子を見たり、自分の食器を種類別に分けて実際に片付けたりしたことで、幼稚園の給食時にも、自分から友達や教師の給食の容器を運ぶ姿が見られた。
- ・小学生が時間を意識して静かに食べる様子を見て、「今日は何分までに食べたらいい？」と自分から聞くなど、時間を意識しながら給食を食べる園児が増えた。
- ・これまでの交流に比べて園児と小学生との会話が格段に増え、交流活動を重ねる毎に親交が深まってきた。

交流活動の振り返り

①活動の振り返り・・・交流活動後に園児たちに感想を聞いた。

清掃活動

- ・「雑巾を半分に折って、水が出なくなるまで絞るって教えてくれた。」
- ・「板目に沿ってまっすぐ拭くように言っていた。」
- ・「廊下にある水道からバケツに水を入れて持っていった。」
- ・「教室の後ろから前に床を拭いた。」
- ・「机は二人で運んで並べていた。」



今まで幼稚園の保育室を清掃していて間違っていたことや、明日からの清掃はどうしたらさらに綺麗になるのかを話し合わせた。

- ・「斜めに拭いたら綺麗にならないね。」
- ・「友達みんなで横に並んで真っ直ぐ拭いたらいいね。」
- ・「雑巾が汚れたらまた水で洗って拭こう。」
- ・「雑巾はしっかり絞る。」



雑巾を園児一人一人に渡し、清掃することへの意欲が高められるように誰が1番真っ黒な雑巾になるか競争することを提案すると、園児はやる気を出し、毎日自ら進んで取り組む姿が見られた。

また、冬休み前に大掃除をすることを伝え、「年中組の友達に清掃の仕方を教えてあげよう」と提案すると、「教えたーい！」と張り切っていた。年中児に清掃方法を伝えるためには、どうすればよいかを園児と話し合った。

給食試食

- ・「ご飯が温かくて美味しかった。」
- ・「おかわりしたかった。」
- ・「幼稚園は給食の箱だけど、小学校はおぼんにのせていた。」
- ・「僕は大きかった。」「僕は少なかった…。」

小学校給食が美味しかったので、「早く小学校に行きたくなった。」と言う園児が多かった。

②次回交流の招待状作成



招待状は、どのように書くか教師と一緒に言葉を考え、以前の交流会の時に小学生からもらった招待状を真似しながら作成した。作成している時に園児から「折り紙もつきたい！」とアイデアが出たので折り紙で折ったサンタクロースやケーキも貼りつけて、華やかな招待状が出来上がった。

2 ダンボールを使っておもちゃを作ろう

【吉井保育所年長児と吉井南小2年生の交流】

(平成20・21年度佐世保市教育委員会指定)

1 活動名	「ダンボールを使っておもちゃを作ろう」		
2 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ作りを通して、小学生との関わりを楽しむ。 ・考えたり、工夫したりしながら、協力して活動する楽しさを味わう。 		
3 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子を見ながら、小学生と楽しく関わられるように見守る。 		
時間	子どもの活動	保育者の援助・留意点	環境構成
10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 小学校のお兄さん、お姉さんと対面し、あいさつをする。 ・先生の話聞く。 今日は何をするのかなど話を聞き、約束事がわかる。 ・各グループに分かれる。 ・自己紹介をする。 ・おもちゃ作りを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の大勢での訪問は初めてなので、不安がる子どもがいたら、側についてあげるなどして、安心させる。 ・はさみ、ダンボールを切るのこぎり等の正しい使い方を分からせ、安全に気をつける。 ・活動に積極的に関わっていきけるように言葉かけをする。 ・頑張っている所や工夫している所を認め、友達と一緒に作る喜びを十分楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールの数 大・小あわせて25個 ・班の構成人数 小学生5人、園児3～4人を1班とする。 ・小学生と一緒にふれあう機会を多くもてるよう、保育者間で連携を取り合っておく。 ・安全に留意して、スペースを確保し、必要なものを取りやすい場所に準備しておく。 ・活動が十分楽しめる様、ダンボール、ひも、テープ、マジック等の材料の準備を十分に用意する。 ・作品作りのヒントになるようなものが載っている本を用意する。
11:05	<ul style="list-style-type: none"> ・かたづけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作の途中でまだやりたい子どももいると思うので、その気持ちを受け止めながら、続きができることを話し、今後の活動につなげていく。 	
11:15	<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった作品をみせながら、感想などを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しかった所や自慢できる所など、子ども達の感想を聞く中で、自分の思っている事がうまく表現できる様に助言する。 	
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 小学校のお兄さん、お姉さんにさようならのあいさつをする。 		

保育所にてダンボールを使っておもちゃを作る活動を行った。今回のねらいは、おもちゃ作りを通して、小学生との関わりを楽しむこと、考えたり、工夫して活動する楽しさを味わうことであった。

二年生との交流も二度目であることから、顔見知りのお兄さん、お姉さんということで、久々の交流であったが、緊張したり恥ずかしがったりする様子も特には見られなかった。まずは、小学生と対面してあいさつをし、各班に分かれて、それぞれ自由に製作に取り組んだ。

小学生も園児も、大量にあるダンボールや材料、初めて使う道具に期待を膨らませながら、各班で何を作るか話し合いをしてそれぞれ製作に取り掛かった。園児は、初めは様子を伺いながら、自分たちの出来る事を自分から見つけて、積極的に絵を描いたり、家やトンネルの部分をテープでくっつけたりと活動に参加していた。初めてダンボール切り用ののこぎりを使ったので、園児も興味津津で、力の入れ加減が難しく、保育士と一緒にダンボールを切ったりしながら、初めての経験に喜びの表情を見せていた。また、自分たちなりに小学生の作品を真似て、一つ車を作ったり、家の周りに絵を描いたり、紐やテープで自分なりに飾り付けをしたりと、材料をいっぱい使いながら、自由な発想で製作し、表現することを楽しんでいた。

中には、小学生の勢いに圧倒されて、自分から中に入っていけない子もいたが、保育士が声をかけたり、一緒に活動を提案したりする内に、少しずつ活動に入っていけるようになった。小学生は、そのような園児にも、優しく声をかけたり、「一緒に作ろう。」と誘ったり、家やトンネルの中に入れてくれたりして、園児と一緒に活動がしやすいような雰囲気を作ってくれた。協力して作ったおもちゃが完成すると園児たちは中に入って喜んで遊び、小学生もそんな園児の様子を嬉しそうにながめて、上手く出来たことに満足そうな様子を見せていた。

各班、作品が完成し前に出て発表する時には、園児も自分たちも参加して一緒に作った作品にとっても嬉しそうな表情を見せ、作る過程で難しかった所、工夫した所など発表しながら得意げに見せたり、嬉しそうにしていた。他の班の作品を見る時には、「凄いな。」「面白そう。」「早く遊びたい。」などと色々な意見を口にしながら、他の班の作品にも興味津々な様子でじっくりと見入っていた。

その後、小学生とあいさつをして活動を終えた。小学生が帰る時には、「また来てね。」と嬉しそうに言っている子もあり、小学生も園児も、次に会えるのを楽しみにしている様だったが、作ったおもちゃで遊ぶ時間がなく、小学生から「遊びたい。」「遊ばれんと?」という声が聞かれ、少し残念そうだった。作ったもので一緒に遊べたらもっと満足感が味わえ、関わりを楽しめたのではないかと思った。

後日、小学生からダンボール製作についてのお便りが来ると、子ども達も嬉しそうに手紙を見て、小学生の言葉をしっかり受け止めて、「大事にしよう。」「大切に使わんば。」と言いながら遊んでいた。普段、4、5才児だけではなかなか出来ない規模の遊びや、のこぎりなどを使った内容の製作を、小学生と一緒に思いきり行う事で園児たちは充実した活動ができ、園児たちは充実した活動ができ小学生と関わる楽しさを味わえたのではないだろうか。園児にとっても、とても良い経験になったと感じた。

3 さあ みんなでかけよう

【天神幼稚園児と天神小1年生の交流】 (平成22年度福岡県「生活科・総合学習の時間」教育学会)

児童の活動	教師の発問 (T) ・手だて (※) ・ねらい (●)
<p>①幼稚園に行くことを知り、行って何ができるか考える。</p> <p>C: 行ってみたい!</p> <p>C: ぼくは〇〇幼稚園にいたから行きたいな。</p> <p>C: わたしは〇〇保育園。</p> <p>C: 天神幼稚園で前、1年生と遊んだよ。</p> <p>C: 天神幼稚園には仲良しだった〇〇ちゃんがいるよ。</p> <p>C: 幼稚園の子と遊んであげる!</p> <p>C: サッカーが楽しいからサッカーをしたいな。</p> <p>C: おにごっこしたい。</p> <p>C: 何かプレゼントをあげたいな。</p> <p>C: ひらがなを教えてあげたら?</p> <p>C: 校歌を教えてあげたら?</p> <p>C: 運動会のダンスを見せたら喜んでくれるかも。</p>	<p>T: この前は2年生に学校のこと教えてもらって、嬉しかったね。みんな、学校のこと、学校のまわりのこと、たくさん知ってきたね。</p> <p>1年生になったけど、今度は懐かしい幼稚園まで行ってみようか?</p> <p>●いろいろな幼稚園・保育園の名前が挙がる中で、交流を続けてきた天神幼稚園卒園児の経験に焦点を当て、今年も天神幼稚園に行けないか考えさせるようにする。</p> <p>T: 天神幼稚園だったら学校からみんなも歩いて行けるね。天神幼稚園に行ったら、1年生は何しようか?</p> <p>●幼稚園には園児がいて、自分たちは年上の1年生として行くのだということに触れながら考えさせる。</p> <p>※幼児のことを考えている意見がでると、「それ喜ぶね。」などと称賛していく。</p> <p>T: じゃあみんなのしたいことをまとめて、行ったらできるように準備しようね。</p>
<p>②幼稚園へ向かう。</p> 	<p>※準備段階でも、幼児を意識しながら活動できるよう声をかける。</p> <p>(実際は、まだ幼児と対面していないため、交流について十分に想像できていない様子を見せる。)</p> <p>●準備物(折り紙のプレゼントやダンスのポンポン)をリュックに詰め、期待が膨らむようにする。</p>
<p>③幼児と対面する。</p> <p>C: わたしたちは天神小学校の1年生です。今日は一緒に仲良く遊びましょう。よろしくお願ひします。</p>  <p>幼児を見て、「かわいい。」と声を上げる児童もいた。</p>	<p>●初めて会ったときの1年生全体でのあいさつの仕方やプレゼントの渡し方などは事前に指導した。歓迎集会や2年生との交流に続き、3回目となるが、「年上として」や「自分たちで」という思いから、事前練習が一番長い対面式となった。</p> <p>●教師はなるべくその場の指示は出さず、自分たちで進行できるようにした。(自分からはたらきかけるふれ合いへ。)</p> 

恐る恐る、しかし嬉しそうにプレゼントを渡す子どもたち。



ダンスを踊ってみせる時点では、より自信にあふれた様子を見せた。



④ 1年生4人と幼児2人とでグループを作り、自己紹介をした後、一緒に遊ぶ。



C: ぼくの名前は〇〇です。よろしくお願いします。

C: 何して遊ぶ?

C: 先生、〇〇ちゃんがいません。

C: 走っていっちゃったよ。



C: ぼくたちと遊ぼうね。

C: サッカーしようよ。こっちに来て。



T: 今日一緒に遊ぶ幼稚園の子たちです。仲良く遊べるといいね。

T: お名前を言って、手を取ってあげよう。

※なかなか自己紹介を進行できないグループには、自己紹介のフレーズを耳打ちし、相手を見て言えるようにした。

※自分から手を取ってやることで、近付くように促した。

T: 遊びたいところに行ってしまったんだね。急いで追いかけてよう。

● 幼児は勝手知ったる幼稚園で、自分の遊びたい遊びに駆け出していく。1年生には、自分がしたい遊びがあることと、幼児に合わせないといけなことの葛藤が生まれる。

T: 〇〇ちゃんは、ぶらんこで遊びたかったんだね。ぶらんこで遊んであげよう。



⑤思い思いに遊ぶ。

C: 何を読んでいるの? あ、この本知ってる。先生、幼稚園の子はもう自分で本を読めているよ。



C: 逆上がりってできる? 教えてあげようか?



C: ぼく、こんなの弾ける。



C: ちょっとそれ貸して。こんな風に動かすの知ってる?



● 1年生が遊びに向かう幼児を追いかけていく様子が、どのグループにも見られた。そのうち、グループがバラバラになり、最初の幼児に付いて遊ぶ子、その場にいる幼児と遊ぶ子、自分の遊びに熱中する子に別れていったが、遊びを制約せず、様子を見守ることにした。

※同じ遊びをしている1年生と幼児がふれ合えるように、両方に話しかけたり、立ち位置が近づくよう促したりする。



T: 2人で何して遊んでるの?

C: 丸めて剣を作ってるの。

T: カッコいいね。2人とも上手だね。

〇〇君、そんな隅っこでしないで、こっちおいでよ。



⑥後片付けして、帰る。

幼稚園全部屋の後片付けをし、対面式と同じ体形に整列する。

C:今日は仲良く遊べて嬉しかったです。今度は天神小学校に遊びに来てください。



⑦振り返り

遊んだことを絵や文に表して、振り返る。

C:ともだちになりました。うれしかったです。

C:ぺあのひととあそんでなかよくなりました。



C:なまえはひとりしかおぼえませんでした。

C:先生、〇〇君たちなかなかこっち来てくれないよ。

T:う〜ん、何して遊びたいんだろうね?

C:なわとびは?

C:自転車は?

C:ブロックは?

C:う〜ん、何がいいんだよ。

●片付けの仕方を幼児に尋ねながら、1年生が積極的に片付けに関われるように声をかける。

●全体のあいさつとして、幼児の方を見ながらあいさつできるようにする。次回の幼稚園との交流をどのようにするのかは児童に知らせていないが、次回も交流できることを想定できるあいさつとする。

※幼児とのふれ合いが書かれている箇所・児童の気持ちがよく表れている箇所に記しを付け、読み解く。

← ふれ合いを喜びと捉えている。

← 一緒に遊んだことで、ふれ合えたと感じている。



← ふれ合えた相手がどんな子だったか覚えて、書こうとしている。1人しか覚えられなかったという反省、次への意欲を書いている。

IV 保幼小連携年間交流計画例

平成24年度 保幼小連携年間計画 佐世保市立吉井南小学校

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
児童・幼児間交流	小学校	一年生						1年【生活科】さあ！みんなでかけよう (幼・保)	1年【学級活動】給食を一緒に食べよう (幼・保)			1年【学級活動】給食を一緒に食べよう (幼・保)		
		その他				保健委員会【委員会活動】紙芝居しよう (幼・保)		4年【学級活動】給食を一緒に食べよう (幼・保)	1・2年【生活科】芋掘りしよう (幼・保)	3年【学級活動】給食を一緒に食べよう (幼・保)	2年【学級活動】給食を一緒に食べよう (幼・保)	体育委員会【委員会活動】体操を教えよう (幼・保)		
	幼稚園	年中												
		年長				紙芝居 (吉井中)			交流遊び (吉井中)	芋掘り (吉井中)	交流給食 (吉井中)		体操 (吉井中)	
	保育所(園)	年中				紙芝居 (吉井)								
		年長				紙芝居 (吉井)		交流給食 (吉井)	交流遊び (ひび) (おはし) (吉井) (北) 体操 (吉井)	交流給食 (ひび) 芋掘り (吉井)		交流給食 (おはし)	交流給食 (ひび)	
職員間交流		合同連絡会	合同連絡会	学校開放授業参観 (幼・保) 合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	合同連絡会	
地域・家庭への働きかけ			運動会	学校開放			夏休み作品展	就学時健康診断	南まつり			新一年生入学説明会		

平成24年度 保幼小連携年間計画 【交流番号】(交流対象)<場所>

佐世保市立(福石)小学校

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
福石小学校	一年生			【交流2】 I年生、生活科 学校の周りを… (幼保) <公園/広場>								【交流6】 I年生、生活科 いっしょに遊ぼう … (幼保) <小学校>	
	その他		運動会種目 「1年生ごなっ たら」参加 (保・幼) <小学校>										
大宮幼稚園	年中					【交流1】 一緒に遊ぼう (保) <幼稚園>	【交流3】 運動会、こっこ よう (保) <保育所>		【交流4】 公園で遊ぼう (保・1年生) <東公園>			【交流6】 いっしょに遊ぼう … (幼・1年生) <小学校>	
	年長			【交流2】 広場で遊ぼう (保・1年生) <広場>									
大黒保育所 海光園 大宮保育園	年中					【交流1】 一緒に遊ぼう (幼) <保育所>	【交流3】 運動会、こっこ よう (幼) <保育所>		【交流4】 公園で遊ぼう (幼・1年生) <東公園>			【交流6】 いっしょに遊ぼう … (保・1年生) <小学校>	
	年長			【交流2】 広場で遊ぼう (幼・1年生) <広場>									
職員間交流		職員合同連絡 会 (保・幼・小) <小学校> 参観日(小)		* 学校開放 授業参観 (保・幼) <小学校>	参観日(小)	職員合同連絡 会 (保・幼・小) <小学校> 保育参観 <保育所園>	交流事前後連絡 会 (保・幼) <保育所> 参観日(小)	参観日(小)	* 幼稚園開放 保育参観 (保・小) <幼稚園> 参観日(小)			職員合同連絡 会 (保・幼・小) <小学校> 参観日(小)	幼・小連絡会 保・小連絡会
	地或家庭への働きかけ			* 学校開放週間	学校より発行 園より発行				* 幼稚園開放	学校より発行 園より発行			学校より発行 園より発行

児童・幼児間交流

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年生			【交流3】 1~4年特活 芋差しをしよう (幼)	【交流5】 1年生生活 七夕飾りを作ろう (保) 〈小学校〉				【交流13】 1・2年:行事 秋を楽しむ (幼) 〈大悲観公園〉			【交流18】 1~6年 なかよし給食 (幼) 〈小学校〉	
小学校	【交流1】 5年:特活 歓迎遠足に行こう (幼) 〈小学校・つづらダム〉	【交流2】 5年:総合 一緒に遊ぼう (保) 〈小学校〉	1年生と いっしょに あそぼう (幼・保) 〈小学校〉	【交流6】 3年:学級活動 コーナー遊びを楽しむ (幼) 〈小学校〉 【交流7】 4年:スイカ割りを楽しむ (幼) 〈幼稚園〉	【交流9】 5年: 給食を一緒に食べよう (保) 〈小学校〉	【交流10】 お土産さんごっこ をしよう (保) 〈幼稚園〉	【交流11】 お遊戯会の総練習 習を見せよう (保) 〈幼稚園〉 【交流12】 お遊戯会の総練習 習を見せよう (保) 〈保育所〉	【交流13】 秋を楽しむ (1・2年生) 〈小学校〉 【交流14】 芋掘りを楽しむ (1~4年生) 〈小学校〉	【交流15】 餅つきをしよう (5年生) 〈幼稚園〉 【交流16】 6年:特活 お楽しみ会を楽しむ (幼) 〈幼稚園〉	【交流17】 お正月遊びを楽しむ (保) 〈幼稚園〉	【交流18】 なかよし給食 (1~6年生) 〈小学校〉 【交流19】 一緒に遊ぼう いす取りゲーム (保) 〈保育所〉 【交流20】 むかしあそび (1年生)〈小学校〉	
児童・幼児間交流	【交流1】 歓迎遠足に行こう (5年生) 〈小学校・つづらダム〉	【交流2】 一緒に遊ぼう (5年生) 〈小学校〉	【交流3】 芋差しをしよう (1~4年生) 1年生といっしょ にあそぼう 〈小学校〉 【交流4】 一緒に遊ぼう (保) 〈幼稚園〉	【交流5】 七夕飾りを作ろう (1年生) 〈小学校〉 【交流6】 スイカ割りを楽しむ (4年生)〈小学校〉 【交流7】 水遊びをしよう (保) 〈保育所〉	【交流9】 給食を一緒に食べよう (5年生)〈小学校〉 【交流10】 お土産さんごっこ をしよう (幼)〈幼稚園〉	【交流11】 お遊戯会の総練習 習を見せよう (幼) 〈幼稚園〉 【交流12】 お遊戯会の総練習 習を見せよう (幼)〈保育所〉	【交流13】 秋を楽しむ (1・2年生) 〈小学校〉 【交流14】 芋掘りを楽しむ (1~4年生) 〈小学校〉	【交流15】 餅つきをしよう (5年生) 〈幼稚園〉 【交流16】 お楽しみ会を楽しむ (6年生) 〈幼稚園〉	【交流17】 お正月遊びを楽しむ (幼) 〈幼稚園〉	【交流18】 なかよし給食 (1~6年生) 〈小学校〉 【交流19】 一緒に遊ぼう いす取りゲーム (保) 〈保育所〉 【交流20】 むかしあそび (1年生)〈小学校〉		
小佐々 幼稚園 保育所		【交流2】 一緒に遊ぼう (5年生) 〈小学校〉	【交流4】 一緒に遊ぼう (幼)小 〈小学校〉	【交流5】 七夕飾りを作ろう (1年生) 〈小学校〉 【交流6】 スイカ割りを楽しむ (4年生)〈小学校〉 【交流7】 水遊びをしよう (幼) 〈保育所〉	【交流9】 給食を一緒に食べよう (5年生)〈小学校〉 【交流10】 お土産さんごっこ をしよう (幼)〈幼稚園〉	【交流11】 お遊戯会の総練習 習を見せよう (幼) 〈幼稚園〉 【交流12】 お遊戯会の総練習 習を見せよう (幼)〈保育所〉	【交流13】 秋を楽しむ (1・2年生) 〈小学校〉 【交流14】 芋掘りを楽しむ (1~4年生) 〈小学校〉	【交流15】 餅つきをしよう (5年生) 〈幼稚園〉 【交流16】 お楽しみ会を楽しむ (6年生) 〈幼稚園〉	【交流17】 お正月遊びを楽しむ (幼) 〈幼稚園〉	【交流18】 なかよし給食 (1~6年生) 〈小学校〉 【交流19】 一緒に遊ぼう いす取りゲーム (保) 〈保育所〉 【交流20】 むかしあそび (1年生)〈小学校〉		
職員間交流	年間交流計画打ち 合わせ (幼・保・小) 〈小学校〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈小学校〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈幼稚園〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈小学校〉 〈保育所〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈小学校〉 〈幼稚園〉	交流事前連絡会 (幼・保) 〈幼稚園〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈小学校〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈幼稚園〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈幼稚園〉	交流事前連絡会 (保) 〈幼稚園〉	交流事前連絡会 (幼・小) 〈小学校〉 〈保育所〉	就学前連絡会 (幼・保・小) 〈小学校〉
地域・家庭への 働きかけ												

第5章

資料

(保育室環境・教室環境)



保育室環境（保育所・幼稚園）



～絵本コーナー～
カーペット、ざぶとん、
ベンチを置き、季節を感
じる壁面装飾が施して
ある。

～ままごとコーナー～

片づける場所を絵や文字
で表示する。



～製作コーナー～
分類して、使いやす
く片づけやすい。



～個人の持ち物～

帽子、靴、道具類は、名前を表示して、
自分で管理しやすいようにする。



～見通しをもって生活するための工夫～
 1日の生活の流れ、そして1週間、1か月、
 卒園までの見通しをもつ。
 カレンダー、時計、行事記入など…

運動会、発表会などの大きな行事に向け
 て、準備や練習などの表示から、見通しや
 期待をもって取り組めるようにする。



～グループ（当番表）の表示～
 自分たちでグループ名を考え、掲示物を作成
 し、構成メンバーがわかるようにする。



～机・椅子の活用～

～話を聞く～
 絵本・紙芝居などの読み語り、保育者の話
 を自分から聞こうとする態度を養う。



教室環境（小学校）



～教室前面・黒板～

クラスのみあて
日にち、曜日
一日の流れ



～時間割～



～壁面～

50音表など



～当番表～

～持ち物の管理～
 道具箱、ランドセル、
 体操服など



給食もりもりカード



～背面黒板～
 作品などの掲示物
 6年生からのメッセージや
 他の学年の活動の様子を知ら
 せる掲示物・図書の紹介など

平成 23・24 年度幼保小連携推進委員名簿

	所 属	氏 名
小学校	佐世保市立祇園小学校長	三島 智彰
	佐世保市立清水小学校長	秋山 団一
	佐世保市立皆瀬小学校長 (H23 年度) 佐世保市立相浦西小学校長(H24 年度)	益田 和紀
保育会	天神保育園長	迎 絹代
	世知原保育園長	安永 香織
私立幼稚園	相浦幼稚園長	内橋 彰
	早岐幼稚園長	浦川 匠子
公立保育所	中部子育て支援センター (佐世保市立大黒保育所) 長	森 美穂
公立幼稚園	佐世保市立中里幼稚園長	香田 尚美

接続カリキュラム検討委員名簿

	所 属	氏 名
小学校	佐世保市立祇園小学校長	三島 智彰
	佐世保市立清水小学校長	秋山 団一
	佐世保市立皆瀬小学校長 (H23 年度) 佐世保市立相浦西小学校長(H24 年度)	益田 和紀
保育会	天神保育園長	迎 絹代
	世知原保育園長	安永 香織
私立幼稚園	さつき幼稚園主任	国府田 芳子
	皆瀬幼稚園主任	谷川 美香
	いしだけ幼稚園主任	池田 祥子
公立保育所	北部子育て支援センター (佐世保市立上相浦保育所) 長	淵 和美
	東部子育て支援センター (佐世保市立早岐保育所)	高岸 美津代 (H23 年度主査) 大塚 理恵子 (H24 年度係長)
公立幼稚園	佐世保市立天神幼稚園長	榊原 摩理子
	佐世保市立中里幼稚園長	香田 尚美

事務局

教育委員会	教 育 長 永元 太郎 教 育 次 長 中島 正大 主 幹 小林 庸輔
子ども未来部	部 長 永石 泰昭(H23 年度) 野中 博行(H24 年度) 次 長 森吉 恭子 課 長 村崎 公一(H23 年度) 吉永 洋明(H24 年度)
幼児教育センター	所 長 浪花 清子 副 所 長 馬場 紀美子 主 査 芥川 祐子(H23 年度) 田崎 康代(H24 年度係長) 主 査 麻生 晴美 主 査 大石 陽子

発行年月日 平成24年12月
編集・発行 佐世保市子ども未来部 幼児教育センター
佐世保市山祇町387番地
電話 0956-31-0550
E-mail : youjik@city.sasebo.lg.jp